

松本市文化財調査報告 No151

長野県松本市

MOMOSE

百瀬遺跡 IV

—緊急発掘調査報告書—



2001.3

松本市教育委員会

長野県松本市

MOMOSE

百瀬遺跡 IV

—緊急発掘調査報告書—

2001.3

松本市教育委員会

序

百瀬遺跡は松本市の南部、寿地区に位置します。平成9年に第3次調査が行われており、今回が第4次調査となります。

このたび当地にアップランド豊丘店の建設が計画されたため、松本市では株式会社アイディール及び松電商事株式会社から発掘調査の委託を受け、埋蔵文化財を記録する目的で緊急発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査は市教育委員会によって、平成11年5月から同年7月にかけて行われました。梅雨時の調査であり、天候に恵まれない日もありましたが、関係の皆様のご御尽力により無事終了することができました。発掘調査の結果、弥生時代から中世に至るまで、幅広い時代の生活の跡を発見することができました。これらは今後、地域の歴史を解明するうえで、大変役に立つ資料になることと思われまます。

しかしながら、開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることも事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうのは残念なことです。発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えます。

最後になってしまいましたが、今回の発掘調査に多大な御理解と御協力をいただいた株式会社アイディール、松電商事株式会社の皆様、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

松本市教育委員会 教育長 竹 淵 公 章

例言

- 1 本書は平成11年5月13日～7月10日に実施された長野県松本市寿豊丘118-2-1他に所在する百瀬遺跡4次調査の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は株式会社アイディール、松電商事株式会社による店舗施設事業に伴う緊急発掘調査であり、同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査を実施、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書執筆はI：事務局、V-1(2)：直井雅尚、V-2：赤羽裕幸、V-4：太田圭都、その他を荒木龍が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担当は以下のとおりである。
- 遺物洗浄：百瀬二三子 遺物保存処理・復原：五十嵐周子、内澤紀代子 遺構図整理：石合英子
遺物実測：菊池直哉、太田圭都、竹内直英、竹平悦子、沢沢文江、松尾明恵、望月 映
トレス：太田圭都、窪田瑞恵、櫻井 了、田多井用章、沢沢文江、版 組：石合英子、林 和子
写真撮影：赤羽裕幸、荒木 龍（遺構）、宮崎洋一（遺物）
- 総括・編集：荒木 龍
- 5 本書で使った遺構の略称は次のとおりである。 堅穴住居址→住、建物址→建、溝址→溝、土坑→土、ピット→P
- 6 図中で用いた方位記号は全て真北方向を用いている。
- 7 調査実施及び本報告書作成にあたり、以下の方々から協力・教示を得ました。記して感謝を申し上げます。（敬称略）
野村一寿、市川隆之（中世遺物）、森 義直（自然遺物）
- 8 遺構・遺物の記述で用いた時期区分や遺構・遺物の分類、用語などの多くは下記文献に拠っている。
奈良・平安及び中世：(財)長野県埋蔵文化財センター1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内1-総論編』
金属製品：同上 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西道路』
- 9 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710 FAX0263-86-9189）に収蔵されている。

目次

本文目次

序文

例言・目次

I 調査の経緯

- 1 調査に至る経緯……………1
2 調査体制……………1

II 遺跡の位置と歴史的環境

- 1 百瀬遺跡の過去の調査…4
2 周辺遺跡……………4

III 調査の概要

- 1 調査の概要……………7
2 調査地の土層……………7

IV 遺構

- 1 弥生時代の遺構……………8
2 古墳時代の遺構……………8
3 平安時代の遺構……………8
4 中世の遺構……………8

V 遺物

- 1 土器・陶磁器……………16
(1) 縄紋時代の土器……………16
(2) 弥生時代の土器……………16
(3) 古墳時代の土器……………18
(4) 平安時代の土器……………18
(5) 中世の土器……………18
2 金属器……………19
3 木材・自然遺物……………20
4 石器……………44

VI まとめ……………50

写真図版1～8……………51～58

抄録

図目次

- 第1図 土層概略図……………1
第2図 調査地点と周辺の遺跡……………2
第3図 百瀬遺跡各調査地点の位置…3
第4図 弥生時代・古墳時代の遺構…5
第5図 平安時代・中世の遺構……………6
第6～10図 遺構(1)～(5)…11～15

- 第11～20図 遺物(縄紋・弥生土器)……………21～30
第21・22図 遺物(古墳～中世の土器)…31・32
第23図 遺物(金属器)……………42
第24図 石器母岩別資料分布図……………45
第25・26図 石器実測図……………48・49

1 調査の経緯

1 調査に至る経緯

百瀬遺跡は松本市街地の南東、寿地区に位置する遺跡である。昭和26年に1次発掘調査が行われてから3次にわたって発掘調査が実施されており、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世を中心とした集落址が確認されている。そうした中、3次調査地点に近接した地点で店舗建設事業が計画され、事業地が周知の遺跡である百瀬遺跡の範囲に近接しており、埋蔵文化財を包蔵する可能性があった。このため事業者と埋蔵文化財の保護について協議を行い、試掘調査を実施して埋蔵文化財の有無を確認することとし、その結果を踏まえ再度協議を行うことになった。

試掘調査は平成11年4月26～28日に松本市教育委員会が実施し、弥生時代を中心とした遺構、遺物を確認した。この結果を踏まえ、再度遺跡の保護協議を行い、店舗建設により埋蔵文化財が破壊される範囲について発掘調査を行って遺跡の記録保存を図ることとなった。発掘調査及びこれに係る事務処理については松本市教育委員会が実施することとし、事業者である株式会社アイディール、松電商事株式会社と松本市の間に平成11年5月1日付けで発掘調査業務の委託契約書が締結された。現地での発掘調査は平成11年5月13日～7月10日まで行われた。発掘調査終了後は、引き続き考古博物館において、整理作業および本報告書の作成を行った。

2 調査体制

調査団長 松本市教育長 竹淵公章

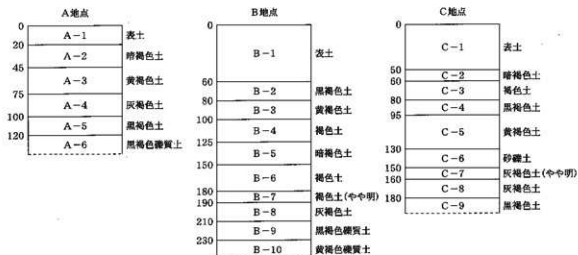
調査担当者 赤羽裕幸 荒木 龍（文化課文化財担当）

調査員 今村 克 太田守夫

協力者 浅井信興 飯島由次 五十嵐周子 白井秀明 遠藤美穂 大月八十喜 久保田登子 小松正子 斎藤政雄 芝田とり子 清水陽子 鈴木幸子 鷺見昇司 高橋登喜雄 高橋昭雄 寺島 実 中上昇一 林 和子 藤本利子 洞沢文江 畑 茂 前澤保亀 丸山喜和子 宮田美智子 村山牧枝 薺 国成 百瀬二子 米山慎興

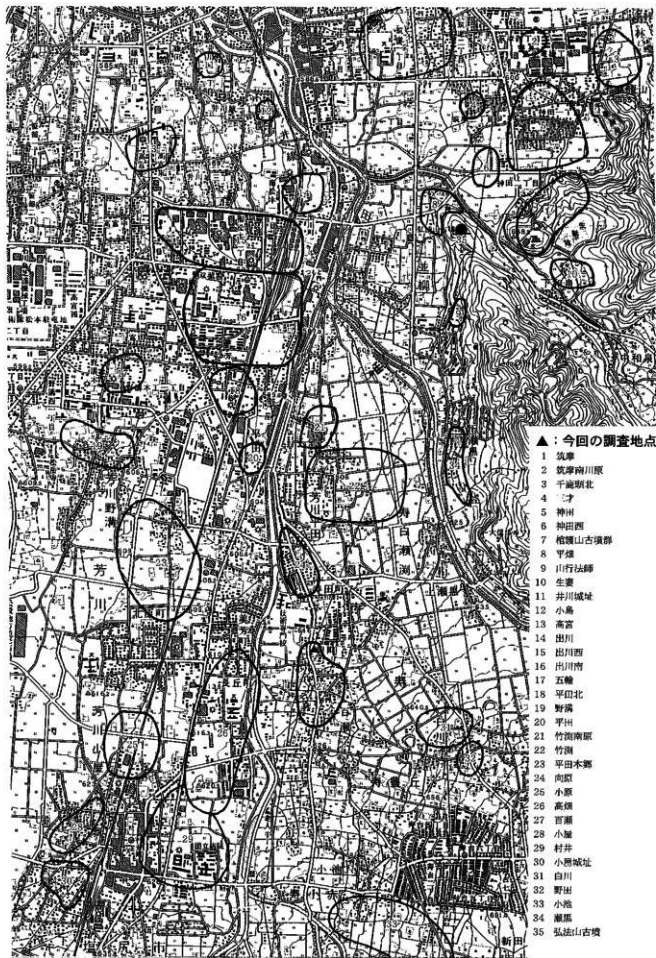
事務局 松本市教育委員会文化課

木下雅文（課長）、熊谷康治（課長補佐）、松井敬治（同）、直井雅尚（主査）、武井義正（主任）、久保田剛（主任）、酒井まゆみ（嘱託）、渡邊陽子（同）、塚原祐一（同）

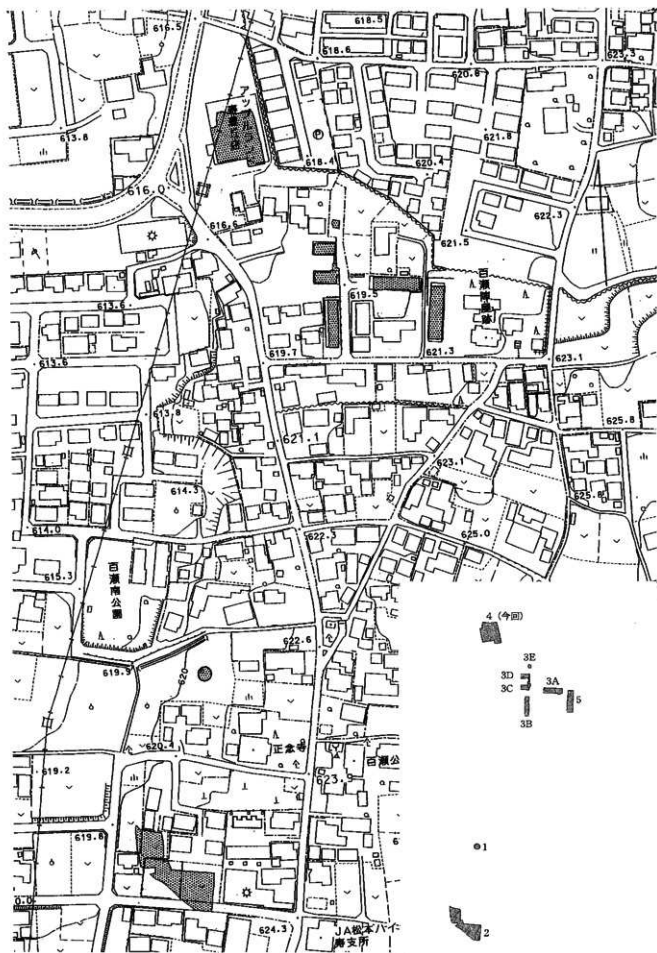


単位：cm

第1図 土層概略図



第2図 調査地点と周辺の遺跡(1:25,000)



第3図 各調査地点の位置(1:2,500)

II 遺跡の位置と歴史的環境

百瀬遺跡は松本市街地南東の寿地区豊丘の百瀬に所在する。周辺には諏訪藩の代官所跡である百瀬陣屋跡（市史跡）、市重要文化財の阿弥陀如来座像のある正念寺、古墳跡といわれる耳塚などが知られている。また昭和26年の発掘調査によって弥生時代中期末の竪穴住居址と遺物が出土し「百瀬式土器」の標式遺跡としても知られている。遺跡内では計5回（約3,000㎡）の発掘調査が実施され、弥生時代中期末だけでなく縄紋時代から中世に至る多くの遺構と遺物が検出されている。地形的には牛伏川の扇状地の末端を南北に流れる田川が侵食することで形成された田川右岸段丘上に位置する。この田川兩岸の段丘上や微高地上には各時期の多くの遺跡がみられる。牛伏川は度々氾濫したことが知られ当地域の遺跡の中には牛伏川の氾濫により消滅したものもあると考えられている。以下では当該遺跡の概要と近年実施した周辺遺跡の発掘調査の成果を概観する。

1 百瀬遺跡の過去の調査（第3図）

1次調査 昭和26～27年実施。4回にわたる調査。正念寺の西側に位置する。藤澤宗平氏が担当して弥生時代中期末の竪穴住居址1軒を検出し多くの遺物が出土した。検出した竪穴住居址は松本平で最初に調査された弥生時代の竪穴住居址である。出土土器群は弥生時代中期末の良好な組成がみられ中南信地方の当該期の標式土器として「百瀬式土器」が設定された。

2次調査 平成4年実施。正念寺の南側に位置する。土地区画整理事業に伴う緊急調査。調査面積1211㎡。縄紋時代、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世の遺構と遺物を検出した。弥生時代中期末の集落の南限、西限を確認したこと、縄紋時代早～晩期の土器、後期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居址、中世の竪穴状遺構などの弥生時代以外の遺構と遺物を確認したこと、同時に実施した地質調査では牛伏川氾濫の痕跡を確認したことなどが特記事項である。平成4年度報告書刊行。

3次調査 平成9年実施。共同住宅建設に伴う緊急調査。調査面積730㎡。弥生、平安、中世の遺構と遺物を検出した。弥生時代中期末～後期の竪穴住居址14軒や松本市内では初となる弥生時代後期の環濠を検出したこと、平安期の集落を確認したこと（竪穴住居址19軒）などが特記事項である。未報告。

5次調査 平成11年実施。共同住宅建設に伴う緊急調査。3次調査地点の東側に隣接する。調査面積333㎡。擾乱を受けて残存状況が良くなかったが弥生時代中期末、奈良時代末～平安時代前期の竪穴住居址などの遺構や遺物を確認した。弥生時代と平安期の集落の東側へ広がりを確認できたことが特記事項である。未報告。

藤澤宗平 1951「長野県東筑摩郡寿村百瀬弥生式遺跡調査概報」『信濃』3-8

松本市教育委員会 1993『松本市文化財調査報告No.137 松本市百瀬遺跡II』

2 周辺遺跡（第2図 ※松本市内のみ）

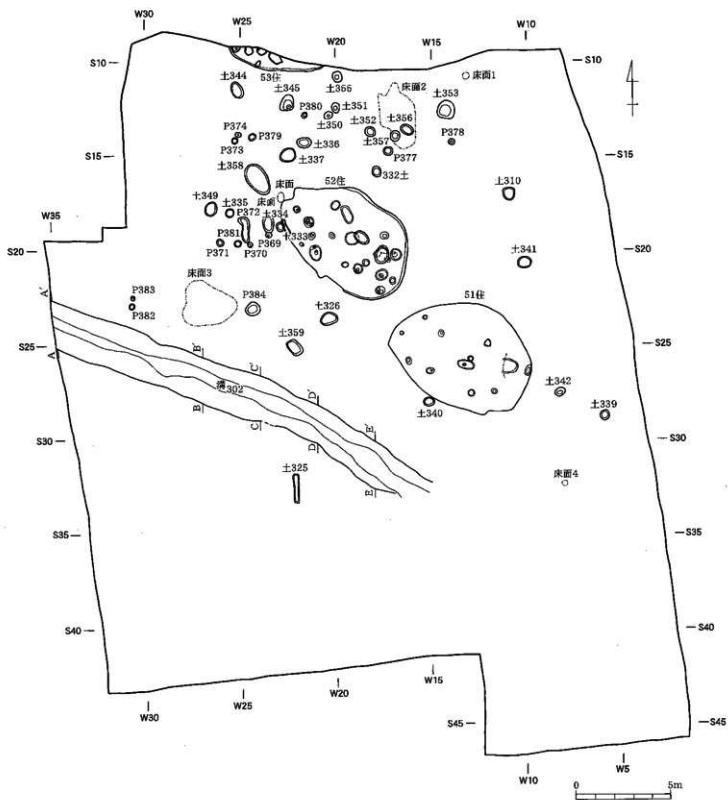
縄紋時代 2次調査で後期の土坑と早期～晩期の土器を検出しているものの遺跡分布ははっきりしていない。4次調査でも中期の土器が検出されている。

弥生時代 中期の集落に百瀬遺跡（1～5次：中期末～後期）、出川西遺跡（中期末）、平畑遺跡（中期末）、後期の集落に竹淵遺跡（後期初頭～前半）、出川南遺跡（後期初頭～前半）、竹淵南原遺跡（後期末～古墳前期）がある。竹淵遺跡では竪穴住居址の他に多くの建物址が検出されている。

古墳時代 前期の集落に出川南遺跡、出川西遺跡、竹淵南原遺跡がある。向原遺跡の下層には前期の包含層がみられている。古墳には北東の丘陵上に東日本最古級の前方後方墳である弘法山古墳がある。中期の集落に高宮遺跡、平田北遺跡がある。高宮遺跡と出川西遺跡には中期の祭祀遺構、古墳には出川南遺跡に平田里1、2号墳がある。後期の集落に出川南遺跡、高畑遺跡、百瀬遺跡（2次）がある。出川南遺跡は松本市内最大の後期集落址である。古墳には東方の丘陵上に中山古墳群がある。

奈良・平安時代 出川南遺跡、平田北遺跡、平田本郷遺跡、高畑遺跡、小原遺跡、向原遺跡、百瀬遺跡（2～5次）などで集落が確認されている。田川右岸では近年、百瀬遺跡、向原遺跡など集落址の調査が増えている。向原遺跡で円形硯、鉈尾（帯飾り）、百瀬遺跡（4次）で風字硯が出土している。

中世 百瀬遺跡（13世紀）、竹淵遺跡（15～16世紀）、竹淵南原遺跡（13～15世紀）、小原遺跡（13世紀）などで集落が確認されている。竹淵遺跡では残存状態の良い柱根がみられた他、内耳鍋片が多く出土している。竹淵南原遺跡では13～14世紀代の残存状態の良い土井戸が検出されている。小原遺跡では14世紀前半代に属すると考えられる多量の埋納銭（2701枚）が出土している。



第4図 弥生時代・古墳時代遺構図

Ⅲ 調査の概要

1 調査の概要

今回の調査地点は松本市寿豊丘118-2-1他に所在する。百瀬遺跡ではこれまでに5次にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から中世までの集落址が確認されている。今回の調査地点は遺跡の北端に位置する。発掘調査の結果、弥生時代中期末と中世に属する遺構とともに、当遺跡では初めて検出された古墳時代中期と平安時代後期の遺構がみられた。出土遺物には土器、陶磁器、石器、金属器、自然遺物などがみられる。特にS9W6地点で出土した弥生時代中期末の面付土器やS36W24地点で出土した平安時代の風字硯、土328出土の中世の鉄鋸は類例の少ない遺物である。

調査にあたっては重機により遺構検出面までの表土除去を行った後、人力により検出・遺構掘り下げを行い、調査終了後重機による埋め戻しを行った。遺構などの測量記録は真北方向に沿って任意の3m方眼を設定して行った。遺構以外の遺物出土については「検出面」または遺物の出土した3m方眼の北東隅に当たる座標を出土地点名として用いた。遺物一覧表において出土地点に座標名が付いている遺物は、出土遺構の種類がグリッド扱いとなっているものである。

調査期間 平成11年5月13日～同年7月10日（延べ40日間）

調査面積 973㎡

検出遺構 弥生中期末 竪穴住居址3、土坑26、ピット14

古墳中期 溝址1

弥生～古墳 土坑1

平安末期 竪穴住居址1、土坑3

中世 建物址2、柱穴列1、竪穴状遺構3、井戸址7、土坑1、ピット37

平安～中世 土坑9、ピット17

出土遺物 縄紋～中世 土器・陶磁器（弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、陶器）

平安～中世 金属器（鋤、刀子、釘、鏃、銭貨）、鉄滓

縄紋～中世 石器・石製品（鏃、磨製鏃、打製斧、磨製斧、磨製包丁、錐、砥石、原石、石核、礫石器、白玉）

弥生～中世 自然遺物（木片、炭化材、炭化物、ベンガラ状遺物）

2 調査地の土層

百瀬遺跡は牛伏川扇状地の末端が田川に浸食されて形成された右岸段丘上の標高615～622m付近に位置する。調査地点は塩尻市方面から松本市方面へ北に延びる段丘が消滅する付近に位置する。当地域の地質的環境は牛伏川の影響が強い。文献では中世末から近世にかけて数度の氾濫のあったことが記されており2次調査における地質調査では氾濫の痕跡が観察されている。

調査地の3箇所土層を観察した。なお、紙面の都合により土層概略図は1頁（I 調査に至る経緯）に掲載した。A地点はS30W6付近（中央部東側）、B地点は建301付近（南西隅）、C地点はS09W27（北西隅）付近に位置する。基本的な層序は表土、暗褐色土～褐色土、黄褐色土、暗褐色土～褐色土、黒褐色土、黒褐色礫質土、黄褐色礫質土である。黄褐色土～黒褐色土までに弥生～中世の遺物がみられた。基盤土は黒褐色礫質土と黄褐色礫質土である。

A地点ではA-3～4層、B地点ではB-3～8層、C地点ではC-5～9層が遺物包含層である。B地点ではこれらの土層中に弥生～中世までの遺物が混在してみられ、A地点とC地点では黒褐色土層中に弥生時代の遺物が多くみられた。調査では平安～中世の遺構検出面をA地点ではA-5層上面、B地点ではB-6層中、C地点ではC-9層上面に設定した。遺構の覆土には黄褐色土と灰褐色土、暗褐色土がみられ井戸址は黄褐色礫質土中（B-10）まで掘削が及んでいた。弥生～古墳期の検出面は平安～中世の検出面と同じ高さでは捉えられず、各3m方眼を人力で掘り下げ遺構検出を行った。遺構は黒褐色礫質土（A-6、B-9）の上面で終わるか、もしくはこの土層を切り込んでいた。特に弥生期の遺構は遺構底面が黒褐色礫質土上面である場合が多く、平面形の確認が困難だった。遺構の覆土には黒褐色土が多くみられ溝302には茶褐色土がみられた。

IV 遺構

今回の調査では弥生時代中期末、古墳時代中期、平安時代後期、中世(13世紀代)に属すると考えられる遺構を検出した。遺構分布は調査地中央に古墳時代中期の溝302、北側に弥生時代中期末の竪穴住居址や土坑、南側に平安時代末期の竪穴住居址と中世の竪穴状遺構や井戸址、建物址などがある。

1 弥生時代の遺構

竪穴住居址、土坑、ピットがある。

51住(第6図、第1表) 調査地中ほどに位置する。黒褐色礫質土に掘り込まれておらず平面形の確定が困難だった。床面と炉址、ピットの存在から竪穴住居址とし、平面形はピットの配置と遺物の分布から推定した。覆土の厚さは約40~50cm、黒褐色土の単層で土器、焼土、炭化物がみられる。床面は地山直床で硬く、炉址の周辺8.3㎡が非常に硬い。炉址はほぼ中央に位置し、煙突炉(竪:第11図24)である。正位に設置されている。床面でピットを11基確認した。主柱穴はP3、P5、P7、P8などであろう。床面上には炭化木材(放射性炭素年代測定結果及び問題は遺物の章を参照)があり樹種はコナラである。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

52住(第7図、第1表) 調査地中ほどに位置する。黒褐色礫質土上面から掘り込まれている。楕円形を呈する。北壁中央付近から東壁、南壁中央付近まで壁がみられ、それ以外の部分は堅い面の広がりやピットの配置から平面形を推定した。西側に隣接する2つの硬い床面もおそらく52住に属するだろう。覆土の厚さは約50~60cm、黒褐色土の単層で土器、焼土、炭化物がみられる。地山直床で硬く、非常に硬い面も一部にみられる。炉址はほぼ中央に位置し、西側と北側に礫の設置された石甕炉である。床面でピットを20基確認した。P3、P5、P15、P17、P18、などが主柱穴であろう。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

53住(第6図、第1表) 調査地北側、北壁際に位置する。遺構の北側は大半が調査地外にかかり、全容は窺えない。黒褐色礫質土上面から切り込まれている。覆土の厚さは約50cm、黒褐色土の単層で土器がみられる。床面は地山直床で硬い。床面でピットを4基確認した。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

竪穴住居址以外の状況 竪穴住居址以外の場所からも多くの遺物が出土している。S09W12(床面1)、S12W15~S15W15(床面2)、S21W24~S21W27(床面3)、S30W06(床面4)の4箇所には51住や52住の床面でみられるような、他より非常に硬化した底面があり、上部の覆土からは多くの遺物が出土した。これらの場所は何かの遺構であった可能性がある。特にS12W15~S15W15の帯は周囲に土坑、ピットがあることから竪穴住居址であった可能性がある。

S12W15~S15W15および周辺(床面2) 約4.6㎡の硬い面があり、硬化面上で計13基の土坑、ピットを確認した(土345・350~353・355・356、P374・377~380)。位置と覆土の状況から土356は炉址、それ以外は柱穴の可能性がある。覆土の厚さは約50cm、黒褐色土の単層で遺物を多く含む。

2 古墳時代の遺構

古墳時代に属すると考えられる遺構は溝302のみである。

溝302(第8図) 調査地のほぼ中央に位置する。東西方向に延びており、断面形状はV字形を呈する。覆土はI、II、III、IV、Vの5層に区分できる。出土遺物は大半がII層より上位にあり古墳時代中期(5世紀代)の様相である。土316以東は不明瞭になり、西側は西壁に達し調査地外になる。

3 平安時代の遺構

土坑、ピット、竪穴住居址がある。土304、土317、土324、42住などの遺構がみられる。

42住(第9図、第1表) 調査地南東に位置する。土316に切られている。竪穴住居址としたが、カマドの痕跡がなく平面形は不整形を呈し性格不明である。床面上で5基のピットを確認した。覆土は黄褐色土の単層で炭化物粒を多く含んでいる。北壁中央付近から内側にかけての床面上には炭化材がみられ、樹種はスギが大半を占める。西壁際には平安時代後期(14期)の土師器杯A、椀、灰釉陶器広口瓶、鉄滓などがみられる。

4 中世の遺構

建物址、竪穴状遺構、井戸址、土坑、ピットがある。検出遺構は主軸方向がほぼ同じであること、遺構間の切り合いが少ないこと、出土遺物の時期幅などから同時期もしくは近い時期に存在していたと考えられる。時期は13世紀代に属するとおもわれる。

建物址 (第9図、第2表)

計3軒検出した。これ以外にも捉え切れなかったが土302周辺、土317周辺にも建物址があるとおもわれる。建物址には柱穴等からの遺物出土がないものの周囲の井戸址や堅穴状遺構などと同じ13世紀代に属するだろう。

建301 調査地南西に位置する。4基のピット、礎石を持つ5基のピット、4個の礎石で構成される礎石建物址である。西側区域外に延びる可能性がある。土312は覆土の状況から建301には伴わないと判断した。主軸方向はN-9° -Eを向く。

建302 調査地中ほどに位置する。6基のピットで構成される南北2間、東西1間の掘立柱建物址である。小規模で主軸方向はN-0°を向く。

柱穴列301 (第5図、第2表) 調査地中ほどに位置する。調査段階では捉え切れなかった遺構である。6基のピットで構成される。主軸方向はN-4° -Eを向く。南側の土311や周囲にあるピットと同一の遺構を形成していた可能性がある。

堅穴状遺構 (第9図、第3表)

計3基を検出した。調査時には土坑として把握したが、規模等から堅穴状遺構として扱う。

土302 調査地南東に位置する。長方形を呈する。礫が多数投棄されており東海系埴鉢、釘が出土している。隣接する土301内に礎石がみられることから建物址内の堅穴状遺構であるかもしれない。

土311 調査地中央やや東よりに位置する。長方形を呈する。覆土は礫をほとんど含まない黄褐色土の単層。床面は検出面から40cmの深さで平坦。床面上でピット2基を確認した。床面積7.1㎡。覆土中より青磁碗 (第22図12)、山茶碗碗 (同図11) が出土し13世紀半ばの様相である。周辺に20基のピット (柱穴列301) がみられることからこれらと同一の遺構を形成していた可能性がある。

土327 調査地中ほどやや西よりに位置する。長方形を呈する。覆土中に炭化物みられる。金属器が2点 (第23図16・17) 出土している。

井戸址 (第10図、第3表)

土316、土321、土322、土328などがある。土307、土308、土309は未完掘だが同じく井戸址の可能性がある。完掘した井戸址ではいずれも覆土中に礫を多く含み、遺物も比較的多く出土した。土316、土321、土322、土328は黄褐色礫質土中まで掘り込まれ調査時にも湧水がみられた。

土316 調査地南東に位置する。平面形は円形を呈し検出面下90cmで方形を呈する。覆土は4層に分かれ掘方と井側の区別ができる。覆土中に多数の礫が投棄されていた。覆土中や底面には木片 (スギ材、スギ樹皮) がみられる。土器・陶磁器類は中世の遺構では最も多く23点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器6点出土。

土321 調査地の中ほど西よりに位置する。平面形は円形を呈し底面では方形を呈する。覆土は3層に分かれ掘方と井側の区別ができる。覆土中には多数の礫が投棄されていた。木片 (スギ樹皮) がみられる。土器・陶磁器類は10点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器5点出土。

土322 調査地の中ほど西よりに位置する。土321に隣接する。平面形は隅丸方形を呈する。覆土は3層に分かれる。覆土中に多数の礫が投棄されている。土321に比べて底面までが浅く木片などもみられない。土器・陶磁器類は6点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器5点出土。

土328 調査地の中ほど西よりに位置する。覆土中に多数の礫が投棄されていた。平面形は隅丸長方形を呈する。覆土は2層に分かれるが掘方と井側の区別はできない。覆土中には多数の礫が投棄されていた。また木片 (スギ樹皮) がみられる。土器・陶磁器類は9点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器は13点出土し鉄鍋口辺部 (第23図28) がみられる。

中世遺構に関する若干の考察 (井戸址について)

中世遺構のうち、井戸址は未完掘分を含めて7基検出されている。同様に、平成11年度に実施した竹瀬南原遺跡 (松本市寿) では13~14世紀代に属する井戸址が検出されたが、井側木枠が良好に残存しており木組方形井戸 (木組方形形板組隅柱横棧型井戸) であることがわかった。本調査で完掘した井戸址に木枠はみられなかったものの底面形がほぼ方形を呈することから、おそらく素掘りではなく竹瀬南原遺跡と同じ木組方形井戸であっただろうと思われる。覆土中から出土したスギ木片は木枠の一部だった可能性がある。これらは土307と土308を除いて切り合い関係がみられず出土陶磁器の年代もほとんど変わらないことから、同時期もしくは近接した時期に存在していた可能性がある。扇状地の末端にある集落の特徴であろうか。これらの井戸の覆土には遺物と礫が多くみられ、埋め戻し時に投棄したものと推定される。今回出土した中世遺物の大半を井戸址からのものが占めている。ただし、竹などを埋設する抜き穴の痕跡はみとめられなかった。

第1表 住居址一覧表

No.	図No.	平面図	規模 (cm)	床面積 (㎡)	主軸方向	炉種類	炉位置	陪 葬	備 考
42	9	不整形	384×338×20	102	N-1° E	なし	なし	平安末(14期)	±316に切られる。竪穴住居址?
51	6	不整形	752×560×24	319	N-29° E	燗煙炉	中央	弥生中期末	
52	7	不整形	732×464×36	273	N-37° E	石煙炉	中央	弥生中期末	
53	6	不明	504×104×24	2.8	不明	不明	不明	弥生中期末	

第2表 雑物址一覧表

No.	図No.	平面図	規模 (cm)	柱記号	所行 (cm)	奥間 (cm)	床面積 (㎡)	主軸方向	柱穴総数 (cm)	時期	備考
雑301	9	長方形	400×388(2×1間)	側柱式?	200~224	338	15.9	N-9° E	径24~44・深さ0~24	中世	礎石建物址
雑302	9	長方形	184×152(2×1間)	側柱式	80~100	148	2.7	N-0°	径16~24・深さ6~16	中世	礎立柱建物址
柱穴列301	—	—	916(5間)	—	—	—	—	N-4° E	径30~44・深さ5~29	中世	

第3表 土坑一覧表 ※欠番未測は非母坑、備考欄遺物名()内数字は各種遺物観察表内のNo.または遺物No.に対応。

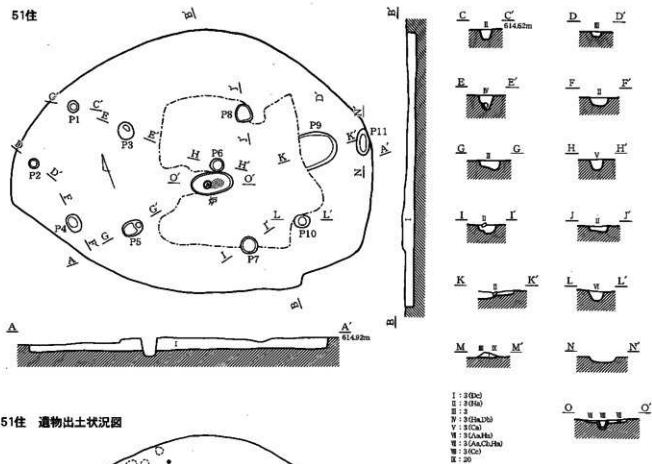
土坑No.	図No.	平面図	規模 (cm)	時期	備考
±301	10	楕円形	54×44×14	中世	礎石
±302	9	隅丸長方形	180×132×28	中世	隅穴遺構、東海系輝緑(22)
±304	9	不整形	116×108×24	平安	黒色土器AⅡ(22)
±305	10	三角形	56×52×28	平安・中世	
±307	10	円形	204×184×136	中世	1.308に切られる。木片(ス平削皮)陶磁器23(25)、金属器3点(2)
±308	10	不明	272×128×88	中世	井戸址か? ±307を切り一部区域外。未測定。砂濇2点
±309	10	円形	—	中世	井戸址か? 未測定。東海系輝緑(26~28)、青系土器(29-30)、金属器1点(3)、鉄片1点
±310	7	円形	64×60×8	弥生	
±311	9	隅丸長方形	472×200×28	中世	隅穴遺構、床面積7.1㎡、主軸方向N-4-E、P332を切る。P2基、青磁碗(31-33)、山岳磚(32)
±312	10	楕円形	136×116×12	平安・中世	トレンチ中に切られる。
±314	10	不明	104×46×52	平安・中世	一部区域外。鉄線(4)
±315	10	円形	60×56×14	平安・中世	炭化材(スギ)
±316	10	円形	277×263×184	中世	井戸址。42位を切る。木片(ス平削皮)陶磁器90(34~55)、金属器5点(5~7)、鉄片1点
±317	9	楕円形	176×104×52	平安	一部P2、須恵器杯(28~25)、炭輪、刀子(8)
±319	10	楕円形	60×48×10	平安・中世	
±320	10	楕円形	88×56×14	平安・中世	
±321	10	円形	202×202×188	中世	井戸址。木片(ス平削皮)陶磁器13点(56~64)、金属器5点(9~11)
±322	10	隅丸長方形	138×128×118	中世	井戸址か? 陶磁器7点(65~70)、金属器5点(12~15)
±323	10	楕円形	64×58×8	平安・中世	溝302を切る
±324	9	円形	54×52×6	平安	土器燗杯AⅡ(26)
±325	7	隅丸長方形	156×28×8	弥生・古墳	
±326	7	楕円形	88×64×14	弥生	平安・中世の検出
±327	9	長方形	168×106×12	中世	溝302を切る。金属器2点、炭化物(スギ)
±328	10	隅丸長方形	160×148×146	中世	井戸址。木片(ス平削皮)陶磁器10点(71~79)、金属器11点(18~28)、鉄片2点
No.	図No.	平面図	規模 (cm)	時期	備考
±330	7	楕円形	90×72×16	弥生	52位層土? ±344 8 楕円形 88×56×40 弥生
±331	7	楕円形	84×54×6	弥生	52位層土? ±345 8 隅丸長方形 84×68×24 弥生
±332	7	楕円形	56×44×12	弥生	平安・中世の検出 土349 8 楕円形 72×60×8 弥生
±333	7	楕円形	52×40×16	弥生	52位層土? ±350 8 楕円形 52×36×28 弥生
±334	7	楕円形	92×56×12	弥生	平安・中世の検出 土351 8 楕円形 52×44×30 弥生
±335	7	円形	42×42×6	弥生	平安・中世の検出、焼土 ±352 8 円形 52×44×16 弥生
±336	7	楕円形	72×56×20	弥生	平安・中世の検出 土353 8 楕円形 94×84×18 弥生
±337	7	隅丸長方形	80×72×16	弥生	平安・中世の検出 土354 10 楕円形 52×44×16 平安・中世
±339	7	円形	48×46×28	弥生	平安・中世の検出 土355 8 隅丸長方形 56×48×12 弥生
±340	8	楕円形	58×46×6	弥生	平安・中世の検出 土356 8 楕円形 68×50×22 弥生
±341	8	楕円形	72×60×15	弥生	平安・中世の検出 土357 8 隅丸長方形 52×46×24 弥生
±342	8	楕円形	56×42×12	弥生	土358 8 楕円形 176×104×8 弥生
±343	10	円形	54×52×55	平安・中世	±327周辺 土359 8 隅丸長方形 88×60×4 弥生

第4表 ビットー一覧表 ※欠番未測は非母坑、備考欄遺物名()内数字は各種遺物観察表内のNo.または遺物No.に対応。

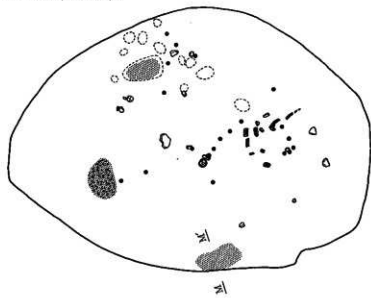
No.	平面図	時期	備考	No.	平面図	時期	備考	No.	平面図	時期	備考
301	円形	平安・中世	±302周辺	329	円形	中世	雑302	357	円形	平安・中世	±327周辺
302	円形	平安・中世		330	円形	中世	雑302	358	円形	平安・中世	±327周辺
303	円形	平安・中世	±302周辺	331	円形	中世	雑302	359	円形	平安・中世	
304	円形	中世	±311周辺	332	円形	中世	±311周辺	363	円形	中世	±311周辺
305	円形	中世	雑301、礎石	333	円形	中世	雑302	365	円形	中世	±311周辺
307	円形	平安・中世		334	円形	中世	雑302	366	円形	中世	雑301、礎石
308	円形	中世	青系土器燗杯(1)	335	円形	中世	雑302	367	円形	平安・中世	±327周辺、竪屋入
309	円形	平安・中世		336	円形	平安・中世		369	円形	中世	
310	円形	中世	雑301	337	円形	平安・中世		370	円形	弥生	
311	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	338	弥生	旧47住跡土器間		371	円形	弥生	
312	方形	中世	雑301、礎石	340	円形	中世	±311周辺	372	不定形	弥生	
313	方形	中世	雑301	341	円形	中世	±311周辺	373	円形	中世	
314	方形	中世	雑301	342	円形	中世	±311周辺	374	円形	弥生	
315	円形	中世	雑301、礎石	343	円形	中世	±311周辺	377	円形	弥生	床面2
316	円形	中世	雑301	344	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	378	円形	弥生	床面2
317	円形	平安・中世		345	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	379	円形	弥生	
318	円形	平安・中世		346	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	380	円形	弥生	
319	円形	平安・中世		347	弥生	旧47住跡土器間		381	円形	弥生	
320	弥生		旧47住跡土器間	349	円形	中世	±311周辺	382	円形	弥生	
321	弥生		旧47住跡土器間	350	円形	中世	±311周辺	383	円形	弥生	
323	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	351	円形	中世	±311周辺、柱穴列301	384	円形	中世	床面3
324	円形	平安・中世		352	円形	中世	±311周辺	385	円形	中世	雑301、礎石
325	円形	平安・中世		353	円形	中世	±311周辺	386	円形	中世	雑301
326	円形	平安・中世		354	円形	中世	±311周辺				
327	弥生		旧47住跡土器間	355	円形	中世	±311周辺				

弥生時代の遺構

51住

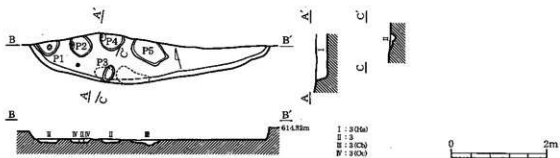


51住 遺物出土状況図



記号	土色	記号	遺入物	記号	遺入物の量	記号	特徴
2	暗褐色土	A	小壺	a	微量	g	砂質
3	黒褐色土	B	土	b	少量	e	堅質
6	灰褐色土	C	焼土塊	c	多量		
7	茶褐色土	D	焼土塊				
8	赤褐色土	E	灰化物塊				
11	緑褐色土	F	灰化物塊				
17	暗黄褐色土	H	黄色土粒				
20	紅土	I	黄褐色土粒				
		L	黄褐色土塊				
		O	灰褐色土塊				

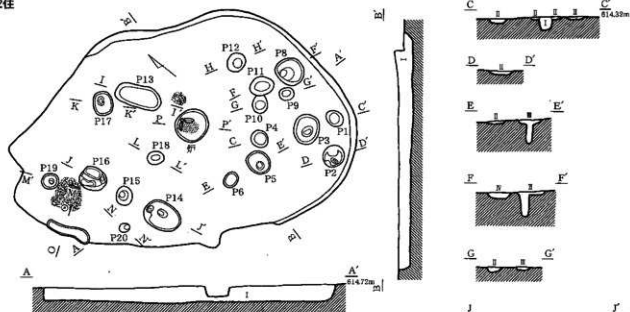
53住



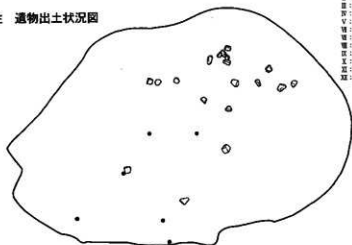
第6図 遺構 (1)

弥生時代の遺構

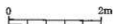
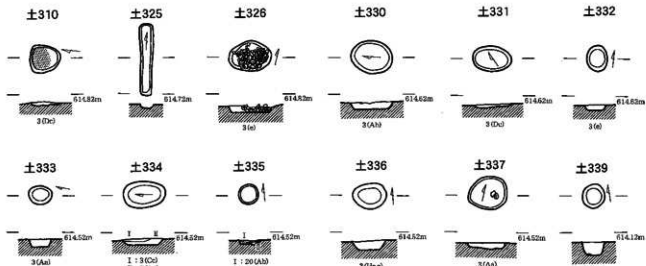
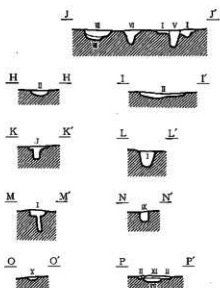
52住



52住 遺物出土状況図

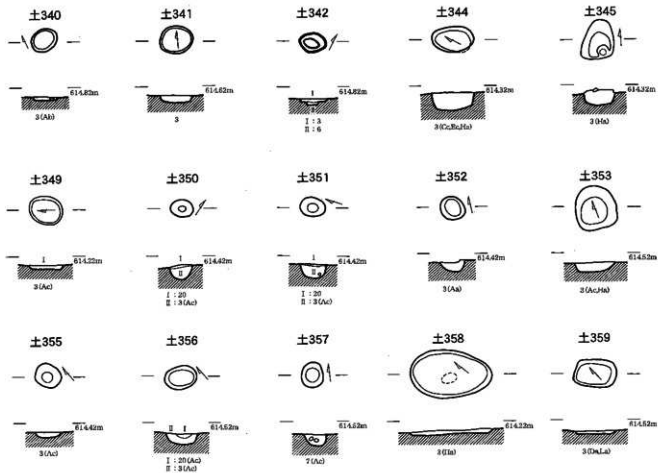


- I : 30(Sa)
- II : 3
- III : 3(Ca)
- IV : 3(Aa,3b)
- V : 3(Sa)
- VI : 3(Ba)
- VII : 3(Aa)
- VIII : 14
- IX : 3(La)
- X : 3(SB)
- XI : 3(Ca)
- XII : 20

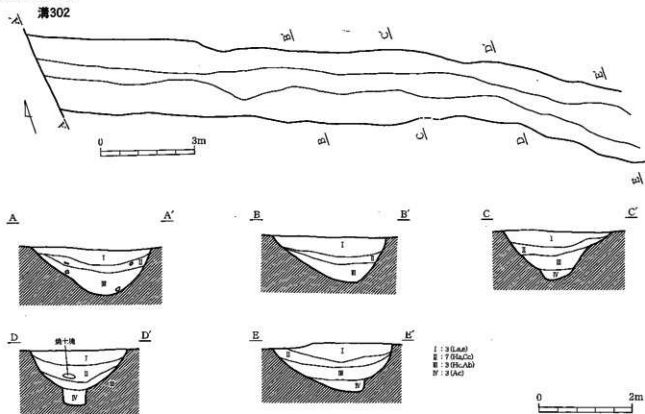


第7図 遺構(2)

弥生時代の遺構



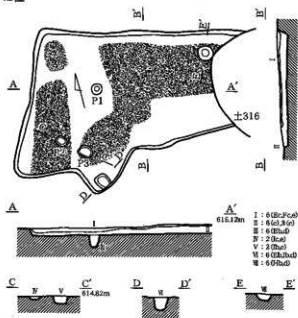
古墳時代の遺構



第8図 遺構 (3)

平安時代・中世の遺構

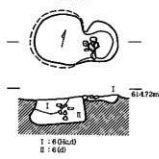
42住



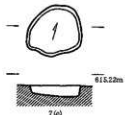
42住 遺物出土状況図



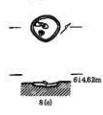
±317



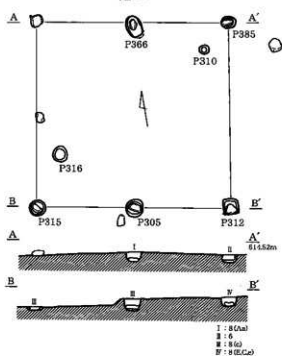
±304



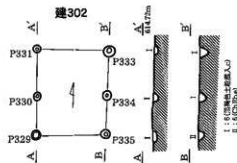
±324



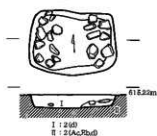
建301



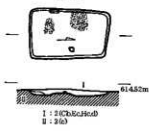
建302



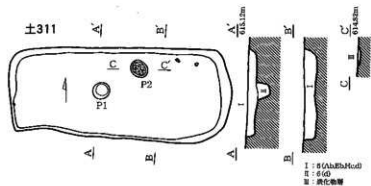
±302



±327



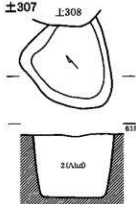
±311



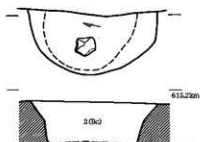
第9図 遺構 (4)

中世の遺構

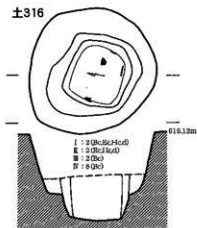
±307



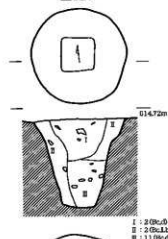
±308



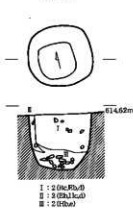
±316



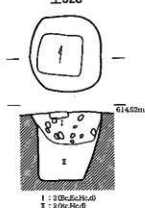
±321



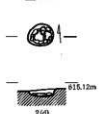
±322



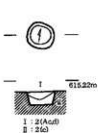
±328



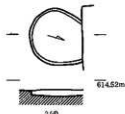
±301



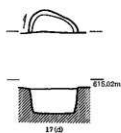
±305



±312



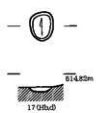
±314



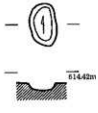
±315



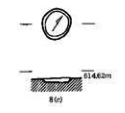
±319



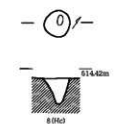
±320



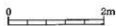
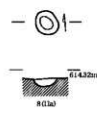
±323



±343



±354



第10図 遺構 (5)

V. 遺物

1 土器・陶磁器

(1) 縄紋時代の土器 (第20図559～565、第5表)

遺構の発見はなかったが、少量が弥生時代の遺構や包含層から他の時代の遺物に混じって出土している。いずれも破片で、7点を拓影で示した。559は中期初頭、562～564は中期中葉、561・565は中期後葉の深鉢胴部である。560は晩期の無文土器の口縁部と考えられる。当遺跡は過去の調査で縄紋期の遺構や遺物が少数ではあるが検出されており、本調査地点の周辺にも縄紋中期や晩期の小規模な遺構が存在する可能性がある。

(2) 弥生時代の土器 (第11～20図、第5表)

① 概要

竪穴住居址やその他の遺構、及びグリッドから多量に出土した。総量は整理用コンテナ約30箱に達する。そのうち167点を実測図で、388点を拓影で示した。時期は、弥生中期末に属するものがほとんどで、これに後続する後期初頭のものがわずかに伴う。

② 器種・器形と特徴

大別して壺形土器 (以下、「〇〇形土器」は略す)・甕・台付甕・高杯・鉢・甌の各器種がみられる。壺と甕の器形分類は基本的に文献に従う。

壺は全形がわかるものは158の1点のみである。器形を把握できるものはすべて壺Aで、施紋上から壺A1 (頸部以外にも主紋様をもつもの: 34・107・114・156) と壺A2 (頸部に主紋様が集中するもの: 51・54・65・123・158) に分けられる。その他の特徴として、口縁部に有段・受け口・外反の3形態を認めることができ、第5表ではa・b・cで示した。無頸壺はわずかにみられる (14)。

甕は全形がわかるものは26・39・41・120などがある。最大径の位置 (口縁部・胴部) と胴部の張り具合、口縁部の外反・受け口・有段の3形態などを指標にし、甕A1 (18・22・41・104・129など)・甕A2 (17・87・120など)・甕A3 (26)・甕B1 (39・106など)・甕B2 (38)・甕C (86) の分類が認められる。また、容量は大形から小形のものまで各種があり、特に小形の底部周辺を欠くものは台付甕の可能性もあろう。

台付甕は全形を知り得るものが1点 (42) ある。脚部を欠くものは紋様の種類から判別した。また、脚部のみ残存の甕は赤彩がないものや、わずかに残る胴部内面にミガキがないものを含めた。このため、甕や高杯との誤認もあろう。甕と同様、口縁部に有段・受け口・外反の3形態があり、胴部も丸いもの (42) と「く」の字形に張る (27・37) もの2形態がみられる。

高杯は全形を知り得るものがない。杯部は鉢と見分けがつかないが、直線的か、ふくらみながら開き、口縁部は水平になるくらい強く屈曲外反する。脚部は付部に比して短い。杯部内外面と脚部外面にミガキと赤彩が施されるものが多い。杯部と脚部の接合部外面に凸帯を持ち (79)、その凸帯上に刻みが行われるもの (2・110・165・166) もある。台付甕の脚部と形態で分別できにくいものは、赤彩や前記の凸帯のあるもので区別した。

鉢は全形がわかるものは33の1点のみである。胴部はふくらみながら開き、口縁部はそのまま立ち上がった収まる形態のもの (33・61・62・78・93) と、高杯と同じに強く屈曲外反するもの (92) がある。前者には片口のつくものが混じる (115)。内外面にミガキと赤彩が施されるものが多く、口縁部に2個一組の小孔が穿たれるものがある (92・93)。また、外形は甕と同じだが紋様を持たず、全面に赤彩が施される甕形鉢もわずかにみられる (14)。

甌は全形がわかるものはない。逆台形の鉢形を呈すと考えられ、底面に1個所の円孔を有す (29・91)。

ミニチュア土器は壺形 (155・160)、鉢形 (50・121・122)、高杯形 (10・75) がある。雑な成形だが、ミガキが行われるものも認められる。

③ 紋様の特徴 (第5表中では紋の字を省略表記した場合がある。)

縄紋・篋描紋・櫛描紋・貼付紋 (浮紋) が用いられている。また、赤彩も一種の紋様として扱うことができる。このうち縄紋は、甕の口縁部、壺の口唇・口縁 (まれに口縁内側: 476・477)・頸・胴の各部の地紋に使われるのが一般的で、紋様の主体となっているものは少ない (159)。貼付紋は甕や台付甕の円形浮紋、鉢の突起など一部の器種にみられる。

篋描紋は棒状または多載竹管凸面などの工具によって、刻み・刺突・沈線が施される。刻みは壺・甕の口唇部に限って行われ、刺突は壺の頸部・胴部紋様に副次的に伴う。篋描紋で最も多用されるのは沈線で、単純な横走沈線や

それを重ねた平行沈線、波状紋、山形紋、重山形紋、連弧紋、鋸齒紋、複合鋸齒紋、懸垂紋、懸垂横帯紋、コの字重ぬ紋など多様な紋様（紋様帯）が描かれる。ただし、器種によって出現頻度が偏向しており、壺ではほとんどの種類の篋描紋が使われるのに対し、甕では口縁部に山形紋や波状紋が少なめに認められるのみである。コの字重ぬ紋は台付甕に限られる。

櫛描紋は直径1mm前後の細い棒を数本、一列に並べ東ねたと推定される工具によって描かれる平行沈線で、横線紋、斜走紋、縦や横の斜走羽状紋（羽状条痕紋）、波状紋、簾状紋、横や斜の短線紋、円弧紋などがある。口唇部への刻みに使われることも稀にある。器種による出現頻度は篋描紋ほどの偏向はないが、甕に多く壺に少ない。甕の頸部・胴部紋様はほとんどすべてが櫛描紋である。

赤彩は高杯と鉢の全面に最も多用されるが、内面のみの場合もある（97・124・137）。次いで壺の口縁部内外面に行われる例が散見される（7・40・94）。まれに壺の胴部にも認められ（44・46・108）、108の壺は赤彩と貼付紋のみで施される珍しい例である。

④ 人面付土器（第15図167）

S9W6グリッドから出土した破片である。土器焼成前に貫通孔を穿ち、貼付をして人面を表したもので、両目、鼻、上唇の部分が残存している。目は周囲に沈線の縁取りを行い、鼻孔は1穴のみ穿たれている。両目の孔は外側からあけられている。内面調整のハケメを残す点から、壺の胴部が瓢箪形の壺上半部と推定される。

⑤ 出土土器群

弥生土器は調査地全体にわたって出土し、特に溝302以北で出土の密度が高かった。51～53住とそれに該当するグリッド、溝、及び一部の土坑・ピットからの出土品以外については、遺構確認が困難であったため何らかの遺構に帰属するものか否か判断しなないものが多く、グリッドでの取り上げとなっている。したがって、以下では、遺構の項の記述に沿って、遺構及びそれ以外の出土地点毎に土器群に分けて述べる。

51住出土土器群（第11図1～32・第15～17図171～286）出土量は多く32点を実測図化、116点を拓影で示した。床面や覆土からあまりまとまって出土したが、遺構掘り下げの当初は本址のプランを明確に捉えておらず、最終的に本址が属するグリッド出土品も加えたため、一括性はあまり高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B1・2、台付甕、高杯、鉢、甌がみられる。24の甕胴部下半は炉体として埋設されていたものである。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示すが、22の甕は胴部に蹄短線紋が描かれており、弥生後期初頭に下る要素があると考えられる。

52住出土土器群（第12図33～50・第17～18図287～394）出土量は多く18点を実測図化、108点を拓影で示した。前記51住と同様の理由により、出土品の一括性は高くないと考える。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B1・2、台付甕、鉢、ミニチュア土器がある。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示すが、36の甕頸部紋様は篋描横線による区画がなく櫛描紋だけで施されており、別の時期または地域の要素を含んでいる可能性がある。

53住出土土器群（第12図51～54・第18図395・396）本址調査部分が少なかったため量的には多くないが、まとまった資料といえる。4点を図化、2点を拓影で示した。器種・器形には壺A2、甕、台付甕がみられる。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示す。

S09W12(床面1)出土土器群（第13図78～91・第19図452～475）14点を実測図化、24点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A2、甕B、甕C、台付甕、高杯、鉢、甌、ミニチュア土器がみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。ただし、87の甕と459の壺は弥生後期に下る可能性もある。

S12W15～S15W15(床面2)出土土器群（第13～14図92～106・第19図476～492）16点を実測図化、17点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2、甕B1・2、台付甕、高杯、鉢がみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。

S21W24～27(床面3)出土土器群（第14図107・108・第19図493～495）2点を実測図化、3点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A、甕Bがみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。

S30W06(床面4)出土土器群（第14図109～120・第20図496～498）12点を実測図化、3点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B、高杯、鉢がみられる。全般的に弥生中期末の様相を示す。

その他の土器群 古墳時代の遺構と考えられている溝302の覆土中と上層のグリッドから多量の弥生土器が出土している（第13図61～77・第18～19図401～451）。いずれも溝の埋没時に入り込んだものであろう。壺A2、甕、高杯、鉢が出土している。67の甕は弥生後期に下る可能性がある。

S15W24～S18W27のグリッド帯でも多数の出土があり、**旧43住**名で取り上げを行っている。最終的に床面状のものはなかったが、何らかの遺構に類する可能性があるため、他のグリッド出土品とは分け、まとめて提示した(第14～15図121～133・第20図499～527)。一括性は低いと考える。壺A1・2、甕A1・2、甕B2、台付甕、高杯、鉢、ミニチュア土器が出土している。

⑥ 弥生土器の期的特徴

各土器群でも触れたとおり、全般的に見て弥生中期末の土器として捉えられ、器種・器形や紋様構成など、従来「漸次土器」として昭和26年に本遺跡から出土した土器を基に型式設定されていたものにほぼ等しい。大局的には栗林式土器様式の範囲に含まれると考えられ、文献¹⁾では中期3期古段階に相当しよう。

ただし、次期の後期初頭に属すると考えられている紋様構成を持つものがわずかに混じっている。具体的には、壺では404のT字紋B、甕では66・85の頸部から口縁部へ屈曲が少なく伸びる形態や22・422・433・450の擗指短線紋などが該当する。これらは弥生中期末の中での次期へ新しい要素と解釈するよりは、今回の調査状況における各土器群の一括性の低さに原因があり、調査で十分に把握できなかった後期初頭の小規模遺構の存在、あるいは包含層への混入として理解したい。

(3) 古墳時代の土器(第21図、第6表)

土師器・須恵器が出土している。遺構に伴う遺物は溝302出土遺物のみで、他は溝302以南の検出面上や中世の遺構に混入している。土師器には台付甕・高杯・杯・甕・小型丸底壺・罎・甔・ミニチュアがある。中期(5世紀代)に属するものが多いが、前期(4世紀代)の台付甕脚部もみられる。須恵器には杯蓋(第21図32)がある。壺甕類もあると思われるが小破片なので奈良・平安期の壺甕類と区別できない。杯蓋の窯式はMT15型式である。6世紀前葉に属すると思われる。

溝302出土土器群(第21図4～15) 土師器の高杯・杯・高杯または杯・甕・小形壺・ミニチュア土器などがみられる。溝302のⅡ層上部より出土したもので、5世紀代に属する。

(4) 奈良・平安時代の土器・陶器(第22図、第7表)

土師器・須恵器・黒色土器・灰軸陶器と土製品が出土している。9点を図化した。紙面の都合上、図および表には一部を掲載したのみである。遺構に伴う遺物は42住出土遺物などで、他は溝302以南の検出面上や中世の遺構に混入している。時期は大きく分けて奈良時代後期から平安時代前期(8世紀末～9世紀代)と平安時代後期(11世紀後半)に属する。特記事項は風字硯の出土が挙げられる。器種名称、時期区分などは文献²⁾に従う。

土師器 杯A・壺A・碗・甕がある。杯Aには42住出土土器群などに杯AⅡと杯AⅢの2法量みられる。

須恵器 杯A・杯蓋・壺甕類・風字硯がある。杯A底部には回転糸切痕を持つものが大半を占める。奈良時代後期～平安時代前期に属するだろう。美濃須衝窯産の杯・蓋が出土している。壺甕類については全体の分かる資料はない。

風字硯(第22図8) S36W24から出土した。帰属時期は不明である。周囲から出土する須恵器杯Aの時期である奈良時代後期～平安時代前期、42住の時期の平安時代後期のいずれかに属すると考えられる。松本市内および周辺からは三の宮遺跡、景町遺跡、吉田川西遺跡(塩尻市)、上ノ山窯跡群(豊科町)で1点ずつ出土している。これらの出土例から前者に属する可能性が高い。全体の形状と周縁帯が手前以外を巡る点では通常の風字硯と同様であるが、中央部にV字状の突帯が設けられ穿孔された穴が一孔みられる点が特徴であり、松本市周辺の出土例にはみられない。中央突帯手前は墨を擦った痕跡があるため陸部と考えられる。突帯裏は陸部より低くされている点、突帯がV字状をしていて奥から陸部への水や墨汁の移動に適していることから海部とみられる。

黒色土器 内面のみを黒色処理しミガキを施した黒色土器Aがみられる。杯Aと碗がみられる。

灰軸陶器 碗・皿・広口瓶がある。広口瓶は42住で1点出土している(7)。

土製品 備羽口が2点出土している(10・11)。

42住出土土器群(第22図1～7) 土師器杯AⅡ・AⅢ・碗・灰軸陶器広口瓶が出土している。ロクロ成形の土師器杯AⅡの法量が口径平均9.55cm、器高平均2.0cmであり、体部の直線的な小形の土師器碗(5)があることから平安時代後期(14期:文献²⁾)の様相である。須恵器蓋と杯など、他時期の混入もみられる。

(5) 中世の土器・陶磁器(第22図、第7表)

土師器・磁器・陶器が出土している。79点出土し10点図化した。

土師器: 皿が4点出土している。手捏ね成形である。在地産。小破片で全形のわかるものはなく、図化提示はできな

かった。

磁器 (第22図12) : 青磁が8点出土している。1点のみを図示できた。すべて龍泉窯産。幅の広い縞蓮弁紋を持つものがみられる。これらは13世紀前半に属するが、うち2点は13世紀後半～14世紀初頭に属する可能性がある。

陶器 (第22図10・11・13～19) : 東海系施釉陶器 (古瀬戸系陶器)・東海系無釉陶器・須恵質陶器がある。

東海系施釉陶器 (古瀬戸系陶器) : 3点出土したが、いずれも破片で図化できたものはない。灰釉が施されている。四耳壺肩部、卸皿または洗、卸皿または折縁深皿の底部破片である。

東海系無釉陶器 : 壺壺類と捏鉢、山茶碗がみられる。

壺壺類 (第22図13) 口縁部と体部の破片がみられるが全形のわかるものはない。14点出土している。13は常滑系壺の口縁部。器面にナデ痕がみられる。13世紀半ばに属する。

捏鉢 (第22図10・14～17・19) 破片数としては最も多く41点出土している。胎土と口縁部断面形で分類できる。胎土には精胎のものと粗胎のものがみられる。なお精胎には内面に自然釉がみられ外面が褐色から赤褐色を呈するものと内外面灰白色を呈するもの (15) がある。器面にはロクロナデ痕、外面下半にはヘラケズリ痕などがみられる。口縁部断面形は肥厚させずに面取りするもの (16・17)、肥厚し口唇部に溝を持つもの (14・15)、口縁部下を押さえるものなどがみられ、前者が13世紀前半、後2者が13世紀後半に属する。10は口縁部断面形が口縁下を強く押さえた玉縁状になる。粗胎。東海系ではない可能性がある。

山茶碗 (第22図11) 土311から出土している。薄手で精胎であり高台底部には初段尻痕がみられる。東濃産。

須恵質陶器 (第22図18) : 在地産の須恵質捏鉢。器面はナデ調整され口縁部には内面を一周するナデ痕がみられる。口唇部は面取りされている。珠洲産捏鉢の模倣品。

中世の出土土器・陶磁器群 (第22図10～19) : 出土した土器・陶磁器はほぼ13世紀代に属する。遺構覆土中からの出土が多く、特に井戸址と考えられる遺構から比較的多く出土している (土311: 3点、土316: 23点、土321: 10点、土322: 6点、土328: 9点)。これらはいずれも13世紀半ば～後半の様相である。ただし、土316に13世紀前半の捏鉢 (16・17)、土321・土322に13世紀末～14世紀初頭の可能性がある青磁碗などもみられ、若干時期幅があるかもしれない。器種別・用途別にみると土師器皿・青磁碗・山茶碗・古瀬戸系陶器などの食器、東海系捏鉢・須恵質捏鉢などの調理具、常滑系壺壺類・古瀬戸系陶器などの貯蔵具があり、破片数では調理具の割合が多い。中世前期の基本的な組み合わせが出土土器・陶磁器群にみられる。

特記事項として須恵質捏鉢が13世紀半ば～後半の出土土器・陶磁器群にみられること、土器・陶磁器類に煮炊具はみられないが土328では鉄鍋口辺部 (28) が1点出土しており当該期の煮炊具を考える上で貴重な資料といえることなどがあげられる。

2 金属器 (第23図、第8表)

総計56点出土し、30点を図化した。銅銭1点を除き全て鉄製である。器種は釘・刀子・鎌・鋤等が見られる。平安時代または中世に属する土坑から出土する場合が多く、中でも井戸址から出土の場合が多かった。遺構別に出土点数を見ると土328で13点と最も多く、次いで土316の6点、土321・322の5点となる。以下で器種別に詳述する。なお分類は文献4に従った。

釘 釘は19点出土し、うち15点を図化した (1・5・7・10・14・15・19～23・25～27・29)。土328から9点出土している。井戸址から出土する場合が多い。

刀子 土317から出土し図化した (8)。身部の背は直線で、刃は中央部が欠落しているが、切先から緩い曲線を描きつつ基部へ至る。間がはつきりせず、身部から基部への移行はなだらかなのが特徴である。

鉄鎌 土314から出土し図化した (4)。基部を中心に平たい部分が約90度折れ曲がった状態で出土した。

鉄鍋 土328から出土し図化した (28)。同伴遺物から13世紀半ば～後半に属するものと思われる。口径33cm。器形は松本市中山千石で出土したとされる内耳鉄鍋の口辺部によく似ており、口径の値は同じである (文献3: 松本市立考古博物館所蔵)。口唇部に面を持ち内側に稜を持つ。耳部はみられない。松本市千石例のように体部は口辺部にくらべて立ち上がる形態になると思われる。

銅銭 土321付近の検出面より出土し図化した (30)。「嘉祐通宝」(北宋銭。初铸年1056)の銘がある。

不用品 19点出土し、そのうち11点を図化した (2・3・6・9・11～13・16～18・24)。形状から板状不用品、棒状不用品、塊状不用品に分けられる。このうち16・17が特徴的である。16は楕円の板状で一部に柄のような突出部がある。17は棒状不用品が枝分かれたような形状である。2本の釘が錆によって癒着したものではないかと思われる。

鉄滓 17点出土した。総重量1349g。検出面、42住、土328で出土している。

3 出土木材および自然遺物

(1) 樹種・種別 (第9表)

木片、炭化物、ベンガラが出土している。

木片および炭化物は検出面・壁穴住居址・井戸址・土坑・溝址などで合計37点出土している。樹種にはコナラ、スギがある。51住 (弥生時代中期末)、42住 (平安時代末期)、土316・321・328などの井戸址 (13世紀代) で多く出土している。弥生期の遺構や遺物が見られる箇所 (S30W06地点) にはコナラがみられ、平安期と中世にはスギがみられる特徴がある。当時の周辺環境を反映していた可能性がある。

S18W27地点でベンガラが2点出土している。分析した結果、酸に溶解後、チオシアン酸カリウム溶液で赤色を呈し、フェロシアン化カリウム溶液で青色を呈した。従って鉄の炭化物であることがわかる。問題は①ベンガラとして持ち込む、②ここで黄色の沈殿物を焼いてベンガラを作る (目的) ③焼土ができるときに偶然鉄分の多い褐色沈殿物が焼けてベンガラ化したものという点だが、黄褐色部分もあるので②か③であり、焼土である関係上③かもしれない。

(2) 放射性炭素年代測定

51住出土の炭化材1点 (調査取り上げ時は50住出土品として扱う) について、パリオ・サーヴェイ株式会社に委託して放射性炭素年代測定を行った。以下にその報告の一部を抜粋し掲載する。ただし、6世紀代という測定結果は、長野県下における弥生中期末が畿内第4様式に併行するという従来の土器編年上の解釈と大幅にずれるものである。報文で指摘されているような可能性として解釈すれば、今回の出土土器の中に少数ではあるが6世紀代に位置付けられるものがあり、51住覆土中に検出できなかった小規模な同期遺構が存在したか、または一帯の包含層の形成にあたってその時期に炭化材が紛れ込むような何らかの変動があったと想定する。

百瀬遺跡の放射性炭素年代測定 (抜粋)

パリオ・サーヴェイ株式会社

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。炭化材の測定年代値は約1400年前である。

表1 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

遺構	樹種	年代測定BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code No.
50住 No.11	コナラ属コナラ亜種コナラ節	1430±80	-30.2	Gak-20771

(2) 樹種同定

炭化材は、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜種コナラ節に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜種コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔眼部は1~2列、孔眼外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は早穿孔を有し、環孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のもの複合放射組織とがある。

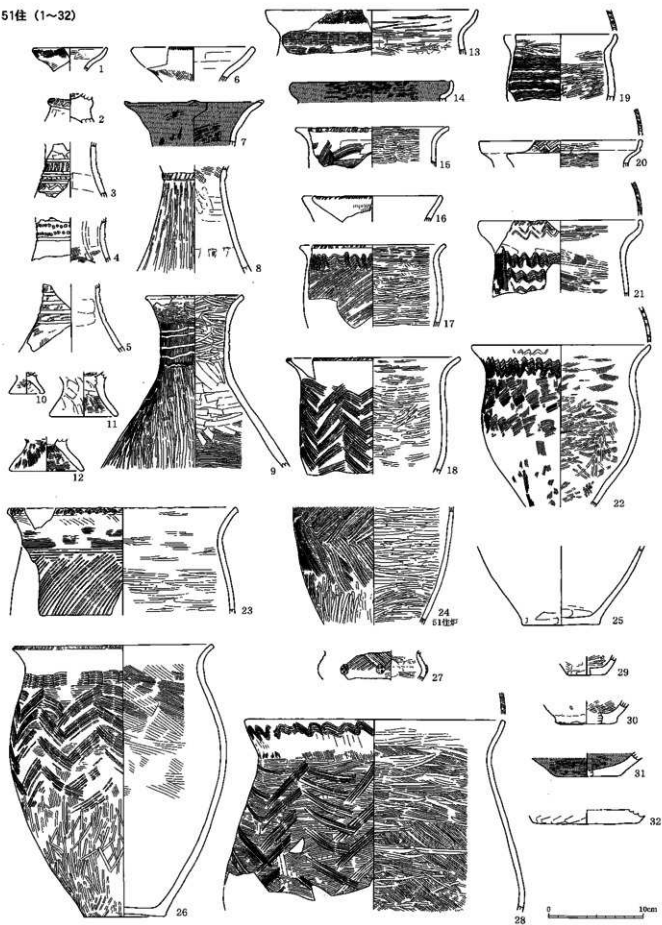
4 考察

炭化材の測定年代値は約1400年前であり、6世紀の古墳時代に相当する値である。出土土器の年代より、住居址は弥生時代中期末のものと考えられており、年代値はこれよりやや新しい。年代測定試料の炭化材が末上に多数まとまって出土していないことから、測定試料の遺構との関連性が低い可能性がある。また、本遺跡は弥生時代・古墳時代・平安時代・中世の複合遺跡であることから、時期の異なる遺物が混入する可能性もあると考えられる。よって、測定試料の炭化材は後代のものが混入した可能性がある。今後は、同一遺構から出土した複数試料の年代測定を実施することにより、遺構の詳細な年代を把握できると考えられる。

V章 1 参考文献

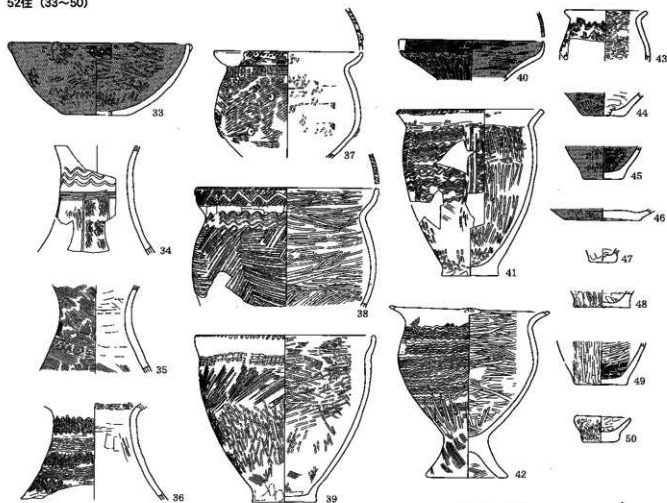
- 文献1 直井雅尚1999「松本盆地南部における弥生中期末後半期の土器編年」『99シンポジウム長野県の弥生1』器類年発表要旨 長野県考古学会弥生部会
文献2 小平和夫1990「第5節 古代の土器」『中央自動車道長野緑地文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』長野県教育委員会
文献3 野村一寿1990「第6節 中世土器・陶磁器」『中央自動車道長野緑地文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』長野県教育委員会
文献4 (財)長野県埋蔵文化財センター1989「中央自動車道長野緑地文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西遺跡」

51住 (1~32)

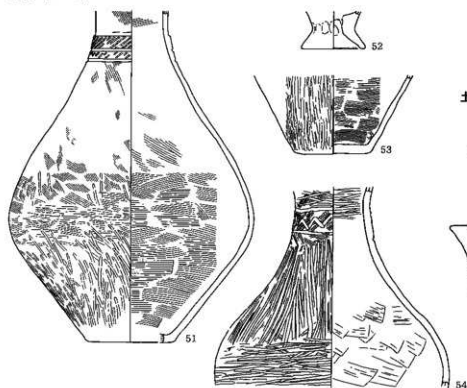


第11图 弥生土器 (1) 实测图

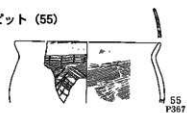
52住 (33~50)



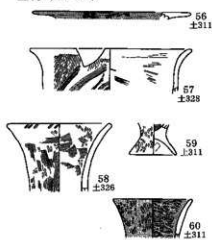
53住 (51~54)



ビット (55)



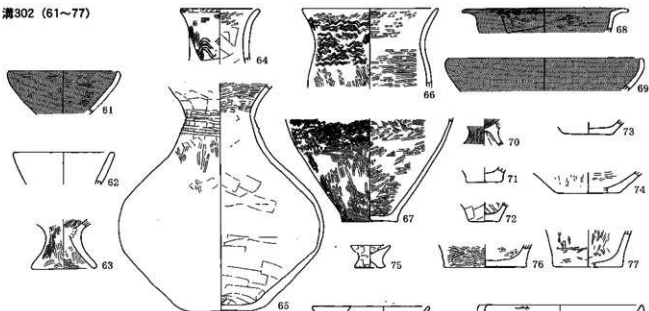
土坑 (56~60)



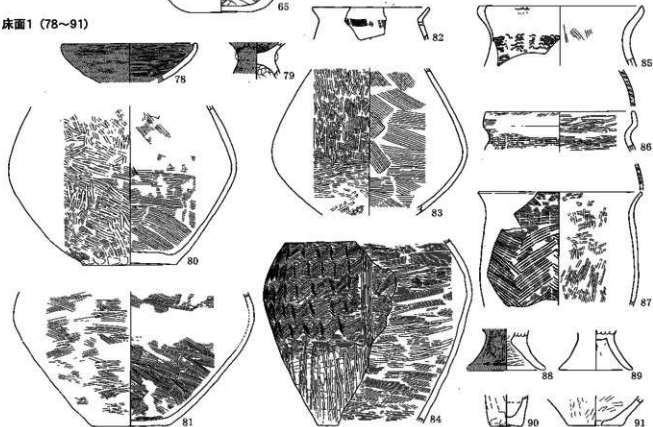
0 10cm

第12図 弥生土器 (2) 実測図

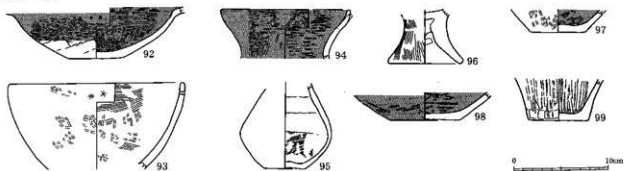
溝302 (61~77)



床面1 (78~91)

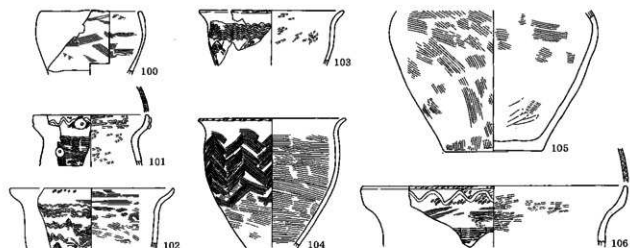


床面2 (92~106)

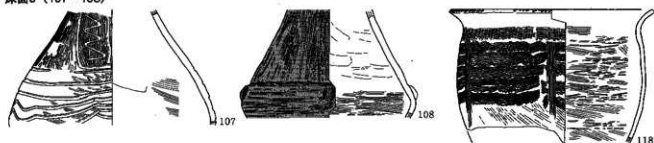


0 10cm

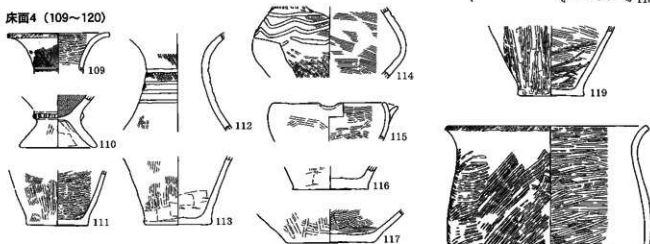
第13图 弥生土器 (3) 实测图



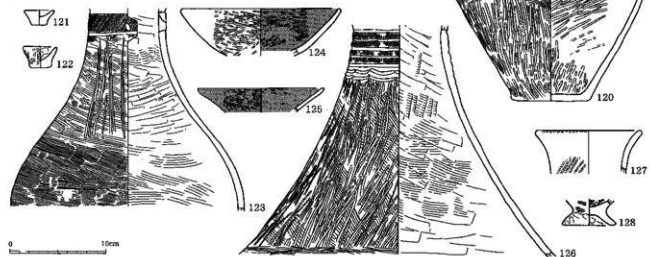
床面3 (107~108)



床面4 (109~120)

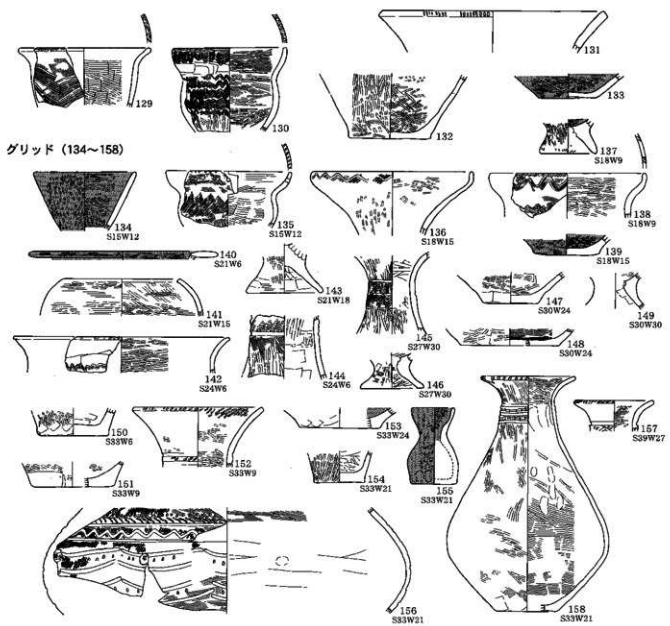


旧43住 S15W24~S18W27 (121~133)



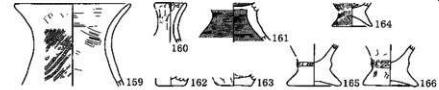
0 10cm

第14图 弥生土器 (4) 实测图

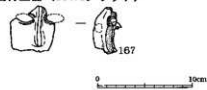


グリッド (134~158)

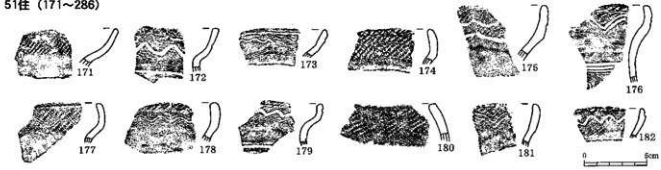
検出面 (159~166)



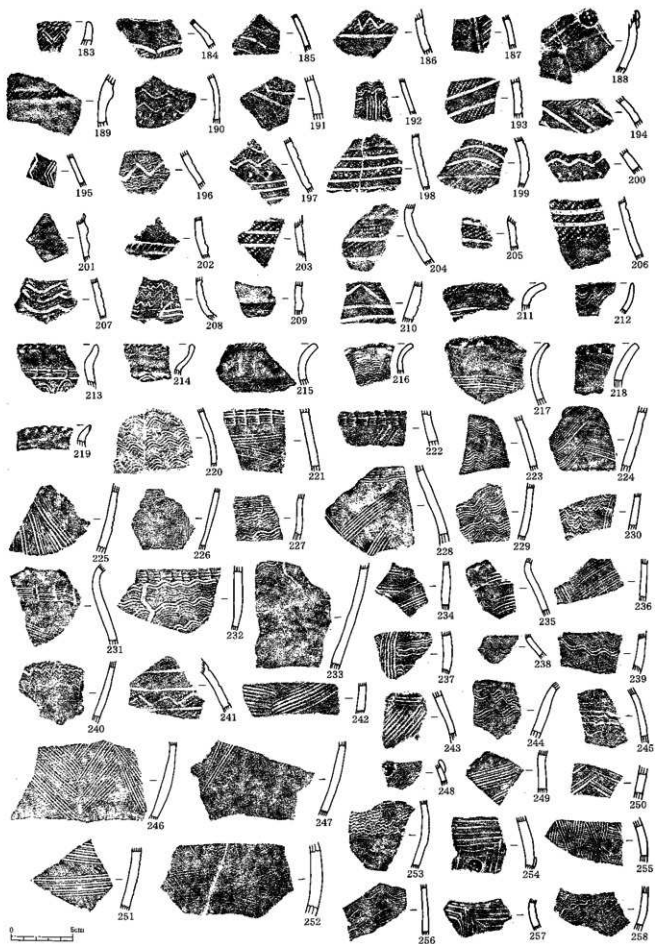
人面付土器 (S9W6グリッド)



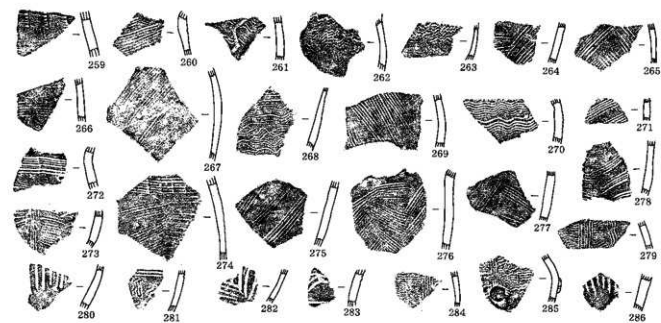
51住 (171~286)



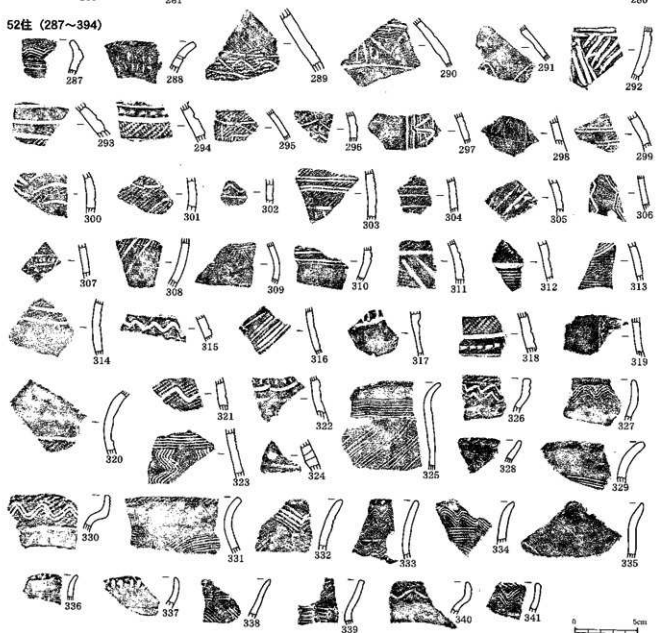
第15図 弥生土器 (5) 実測図・拓影



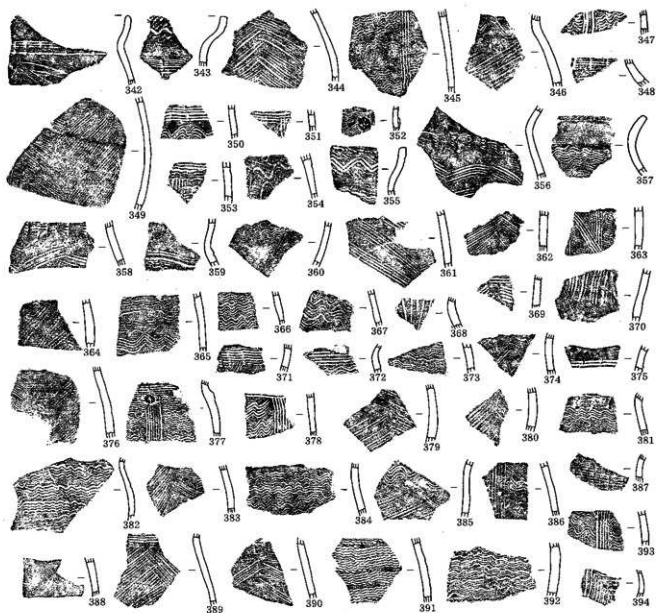
第16图 弥生土器(6) 拓影



52柱 (287~394)

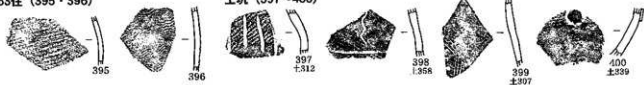


第17圖 弥生土器 (7) 拓影

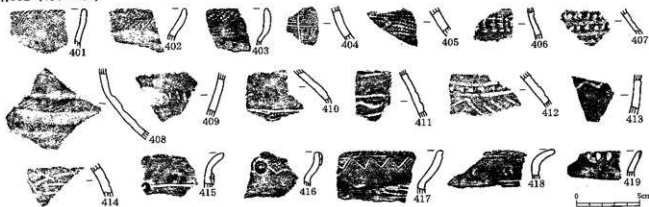


53住 (395·396)

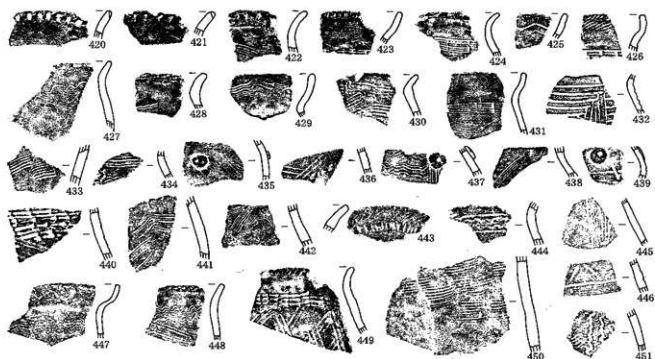
土坑 (397~400)



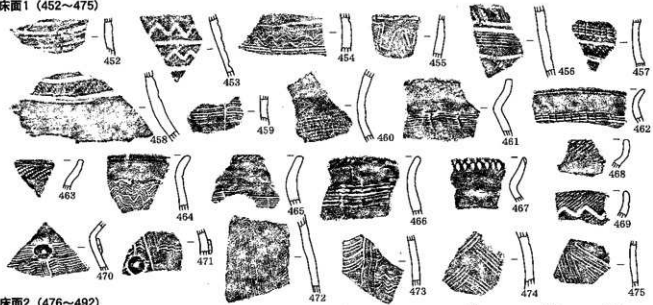
溝302 (401~451)



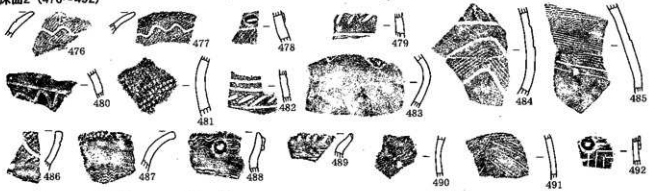
第18图 弥生土器 (8) 拓影



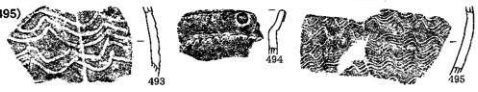
床面1 (452~475)



床面2 (476~492)



床面3 (493~495)

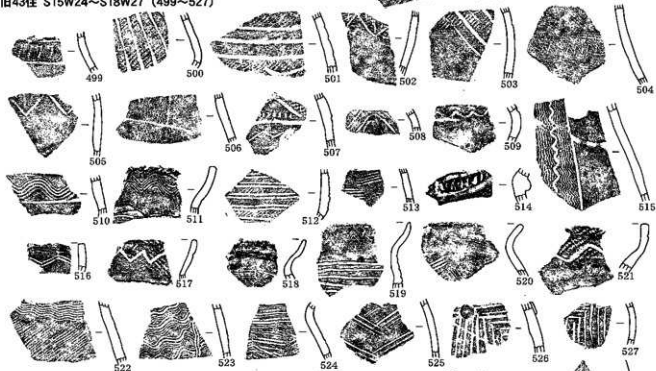


第19圖 弥生土器 (9) 拓影

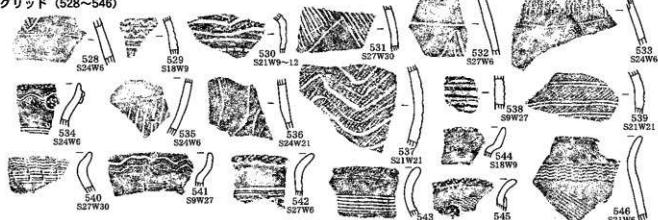
床面4 (496~498)



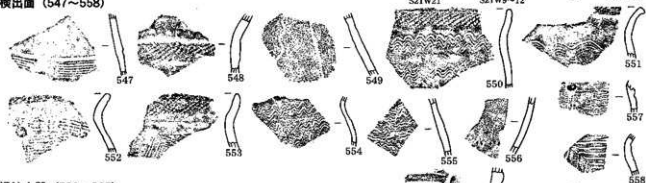
旧43住 S15W24~S18W27 (499~527)



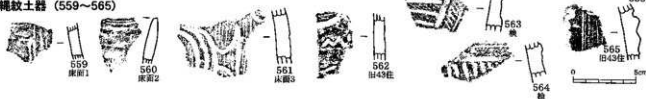
グリッド (528~546)



検出面 (547~558)



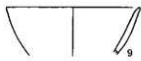
縄紋土器 (559~565)



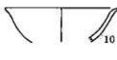
第20図 弥生土器 (10) 縄紋土器 拓影

検出面

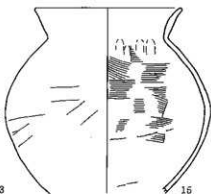
溝302 (4~15)



土316



土327



グリッド・検出面 (16~32)



S30W18



S27W6



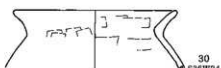
S30W21



S30W24



S36W24



S36W24



S36W18



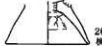
S24W27



S30W27



S36W24



S26



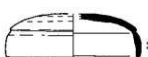
S30W27



S36W15



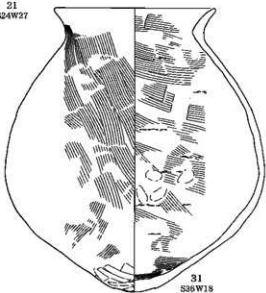
S21



S27W21



S30W18



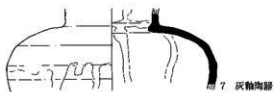
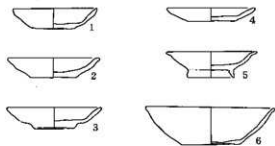
S36W18

0 10cm

第21図 古墳時代の土器

奈良・平安時代 (1~9)

42住 (1~7)



土324



S36W24



中世 (10~19)

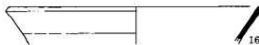
土307



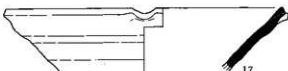
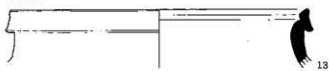
土316 (15~19)



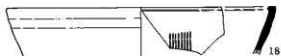
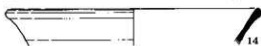
土311



土321



土328



0 10cm

第22図 平安時代・中世の土器陶磁器・土製品

第5表 野生土器観察表 (1~176は実測図, 171~565は拓影, うち559~565は縄文土器, ◎◎は胎記)

番号	地点	形式	寸法			残存度	色調	胎土	外 観 様 式 調 整		実測 No.	注 記	備考
			器高	口径	底径				外 面	内 面			
1	51住 遺	壺			(8.0)	U1/5	黄緑~黒褐色	黒色, 灰石, 白・灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・波状, ハケム摩滅?	工具ナデのちミガキ	50-6	G268	
2	51住 遺	高杯					黄緑, 白色粒	口縁波状, 口縁ヨコナデ・ミナナデ	白帯粒付のちキザミ・工員ナデ	工員ナデ	51-1	G238	
3	51住 遺	壺					黄緑片	胎土磨滅, 山形・押孔, 胎土磨滅	胎土磨滅	工員ナデ	47-2	G471	
4	51住 遺	壺					黄緑片	胎土磨滅, 側突, ナデキ	胎土磨滅	ナデ, ハケム	47-1	G470	
5	51住 遺	壺					黄緑片	黄緑~灰褐色	灰・褐色粒	ナデ	47-3	G468	
6	51住 遺	壺					黄緑片	灰石, 灰色粒	口縁L字調, 口縁ヨコナデ, 胎土ナデ・ハケム	ナデ	47-4	G473	
7	51住 遺	壺			(14.4)	U1/3	赤~赤褐色	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・4単位の変形, ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-81	G121	内外赤影
8	51住 遺	壺					黄緑片	黄緑	胎土磨滅付のちキザミ・ミガキ	ハケム, ナデ	50-8	G492・493・491	
9	51住 遺	壺	10.5		U1/10		黄緑~灰褐色	灰・褐色粒	口縁波, 口縁・胴上縁ハケムのちミガキ, 胎土磨滅縁縁4段・胎土磨滅	工員ナデ, ミガキ, ハケム	G-123	G129	
10	51住 遺	高杯			(8.8)	U1/2	黄緑~黒褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ヨコナデ・ナデ	ミガキ摩滅	50-7	G490	
11	51住 遺	高杯			(8.0)	U1/3	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ヨコナデ・ハケム	ミガキ	47-7	G458	
12	51住 遺	壺					黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	ハケム・ヨコナデ	ナデ	49-4	G497	
13	51住 遺	B2	(22.6)		U1/8		黄緑	口縁キザミ・口縁波状, 胎土磨滅, ハケムのち履帯状条痕	口縁キザミ	ミガキ, 一般押圧痕	47-6	G470・474	
14	51住 遺	壺	(17.2)		U1/8		赤褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ヨコナデ, ミガキ	ヨコナデ, ミガキ	G-121	G188	内外赤影
15	51住 遺	A1	(16.3)		U1/5		黄緑~灰褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁キザミ, 口縁L字調, 胴上縁ナデ, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ	50-1	G600	
16	51住 遺	壺	(14.9)		U1/7		黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ヨコナデ, ハケム摩滅	ナデ	50-2	G541	胎土磨滅
17	51住 遺	A2	(15.6)		U1/8		黄緑, 灰褐色	黄緑	口縁L字調, 口縁ヨコナデ, 胎土磨滅, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ	G-67	G126・132	
18	51住 遺	A1	(18.6)		U1/4		黄~黄褐色	黄, 赤, 灰・褐色粒	口縁L字調, 口縁ヨコナデ, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ	50-12	G181・182・134・227・503・504・513	
19	51住 遺	B2	(11.8)		U1/4		黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 口縁ヨコナデ, ハケム, 胴上縁波状	ケズリのちミガキ	50-11	G496・511	
20	51住 遺	B	(17.7)		U1/18		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 口縁L字調のち山形, ミガキ摩滅?	ミガキ	50-4	G512	
21	51住 遺	B1	(17.4)		U1/12		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 胎土磨滅, 胴上縁下のち磨滅(胎土)	ハケムのちミガキ	49-3	G481	
22	51住 遺	A1	(19.0)		U1/2		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁キザミ・口縁波状, ハケムのち胴上縁波状・胴下部ミガキ摩滅?	ハケムのちミガキ	G-28	G028・029・030・031	
23	51住 遺	A2	(24.6)		U1/6		黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁キザミのちL字調, 胎土磨滅, 胎土磨滅, 胴上縁部引条痕	横方向のミガキ摩滅	50-10	G495	
24	51住 遺	壺					黄~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ハケムのち履帯状条痕, 胴下部ミガキ	ミガキ	51-1	G472	胎土磨滅土器, 胎土磨滅
25	51住 遺	壺			(8.4)	底径2/3	黄~黄褐色	黄緑	ミガキ摩滅? ナデ, 底部ナデ	ナデ摩滅	47-6	G462-464	
26	51住 遺	A3	29.1	21.5	U1/3底一帯欠		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 胎土磨滅, 胴上縁ハケムのち履帯状条痕, 胴下部ミガキ	ハケムのちミガキ?	G-127	G128・129・134・135・136・137・139・141, 口縁跡のみ	
27	51住 遺	高杯					黄緑~灰褐色	黄緑, 灰・褐色粒	胎土磨滅, 口縁ヨコナデ, ミガキ摩滅?	工員ナデのちミガキ	50-5	G507	
28	51住 遺	B3	27.8		U1/4		黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 口縁波状, 胎土磨滅ハケム, 胎土磨滅ハケムのち履帯状条痕	ハケムのちミガキ	G-128	G115・127・140	
29	51住 遺	壺			4.1	底径2	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	工員ナデ・ケズリ, 胎土磨滅, 底面より穿孔	G-95	G235		
30	51住 遺	壺			(6.6)	底径1/4	黄緑~黄褐色	黄・灰・褐色粒	ミガキ摩滅?, 底部ナデ	ミガキ	50-3	G512	
31	51住 遺	壺			(6.4)	底径2/5	赤, 黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	ミガキ摩滅, 底部ナデ	ミガキ摩滅	G-96	G287	内外赤影
32	51住 遺	壺			11.2	底径3/4	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	ケズリ, 底部 縦キリ・ナデ	ナデ	50-9	G497-506	
33	51住 遺	壺	8.66	18.7	U1/3底2/3		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁8単位の変形, ミガキ・ケズリ摩滅, 底面ケズリ摩滅	ミガキ摩滅	44-2	G094・206・404・405・541	内外赤影, 口縁L字
34	52住 遺	A1					黄緑	灰・灰褐色粒	胎土磨滅付・横線各3本, 縦線間に横線付・胎土磨滅	工員ナデ摩滅	G-78	G094・811・104	
35	52住 遺	壺					黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ハケム	ナデ, ハケム	44-6	G481	
36	52住 遺	壺					黄~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	黄・胎土磨滅付のち磨滅波状・胎土磨滅	ミガキ, 工員ナデ摩滅	G-71	G135・137・138	
37	52住 遺	高杯			(16.8)	U1/10	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調・波状・胎土磨滅付, 口縁L字調のち波状, 胎土磨滅, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ摩滅	45-3	45742	
38	52住 遺	B2	(19.4)		U3/4		黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	口縁L字調, 口縁L字調のち山形, 胎土磨滅, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ	52-1	G109・104・1105・115-239	
39	52住 遺	B1	18.8	(19.2)	(6.8)	U1/3	黄緑	灰・褐色粒	口縁キザミ・口縁波状, 胎土磨滅ハケムのち斜行条痕・下部ハケムのちミガキ, 底部ナデ	ハケムのちミガキ	G-81	G104・105	
40	52住 遺	壺			(15.4)	U1/4	赤褐色	黄緑	口縁L字調, 口縁ヨコナデ・ミガキのちL字調・ケズリ, 横ハケムのちミガキ	横ハケムのちミガキ摩滅	52-6	G093・532	内外赤影
41	52住 遺	A1	(17.7)	(15.6)	U3/3底突		黄緑	灰・褐色粒	口縁L字調, 胴上縁ハケムのち波状・胎土磨滅下部磨滅, 胴下部ミガキ, 底部ナデ	ハケムのちミガキ	G-28	G109・104・105・104・105	
42	52住 遺	高杯	18.0	(17.2)	8.7	U1/3底9/10	黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	胎土磨滅付・胎土磨滅, 胎土磨滅ハケムのち波状・ミガキ, 胎土磨滅	ハケムのちミガキ	G-126	G103・104・106	
43	52住 遺	A3	(8.6)		U1/3		黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・胎土磨滅・胎土磨滅ハケムのち波状	ミガキ, 胎土磨滅	45-2	45742	
44	52住 遺	壺			(4.8)	底径2	黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	ミガキ摩滅, 底部ナデ	工員ナデ	G-101	G096	内外赤影
45	52住 遺	壺			(4.2)	底径5/8	黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	ミガキ摩滅, 胎土磨滅	ナデ	44-3	444・407	内外赤影
46	52住 遺	壺			8.0	底突	赤褐色	黄緑, 灰・褐色粒	ナデのちミガキ摩滅, 底部ナデヤケズリ状の部分有り	ナデ	52-4	G531	外・底赤影
47	52住 遺	高杯			2.9	底突ナデ	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	ナデ, 底部ナデ	ナデ	45-1	45742	内面に赤褐色孔有り
48	52住 遺	壺			6.0	底径3/4	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	胎土磨滅付のちミガキ, 底部ナデ	工員によるナデ	52-3	G542	
49	52住 遺	壺			5.6	底一帯欠	黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	ハケムのちミガキ, 底部ナデ	ミガキ	52-2	G540	
50	52住 遺	高杯	2.7	5.9	U1/2底突		黄~黄褐色	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ一部ケズリのち?ミガキ, 胎土磨滅ナデ?	ナデ	G-74	G106・1593・333	
51	52住 遺	A2			(9.8)	胎土磨滅一部	黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	胎土磨滅付のちミガキ摩滅・胎土磨滅, 胎土磨滅ハケムのちミガキ・胎土磨滅	ハケム	G-31	G018・019・020・022・023, 胎土磨滅	
52	52住 遺	高杯			(8.5)	底径1/4	黄緑	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ナデ	ナデ摩滅	52-5	G533	
53	52住 遺	壺			(8.5)	底径2	黄緑~黄褐色	黄緑, 灰・褐色粒	ミガキ, 胎土磨滅	ハケム	52-3	G531	
54	52住 遺	壺					黄緑	黄緑, 灰・褐色粒	胎土磨滅付のちミガキ・波状・胎土磨滅のち山形, 胎土磨滅ハケムのちミガキ	胎土磨滅ミガキ, 工員ナデ	52-2	G29・730	外赤赤影一帯黄影

番号	地点	形式	寸法		残存度	色調	胎土	状況・調査		発掘No.	在記	備考
			器高	口径				内	外			
55	ビツ	甕 A3	(15.4)		口1/12	暗褐～黒褐	雲母、灰、褐色粒	口縁1/2割、頸部縮状、胴上ハケメのち線状条痕	ハケメのちミガキ	P-1	P836-37	
56	土311	高杯	16.8		口1/12	暗赤～赤褐	雲母、灰、褐色粒	ミガキ	ミガキ	北-18	土71-311	内外赤影
57	土328	甕 A1			口1/4	暗赤	白色粒	口縁ヨコナデ、ハケメのち新行条痕	ハケメのちミガキ	北-12	土89	
58	土326	甕	(11.2)		口1/10	暗赤	灰、褐色粒	口縁縮みなし、ハケメ、ミガキ条痕	ミガキ条痕、ハケメ	北-20	土83-326	
59	土311	高杯		(5.0)	高1/10	灰褐	雲母、灰、褐色粒	ミガキ・ヨコナデ・ナデ	ミガキ	北-16	土578	
60	土311	高杯		(8.4)	口1/7	暗赤～赤褐	灰、褐色粒	ミガキ	ミガキ	北-17	土572	内外赤影
61	甕302	鉢	(11.8)		口1/4	暗赤	白色粒	口縁縮・以下は縮ミガキ条痕	ミガキ条痕	G-48	G248	内外赤影・一部藍色付着
62	甕302	甕	(11.0)		底1/8	暗赤	長石、灰、褐色粒	ヨコナデ	ヨコナデ	G-118	G211	
63	甕302	台付甕		(7.0)	底1/3	暗赤褐	雲母、灰、褐色粒	ハケメのちミガキ条痕、ハケメ	ミガキ	G-64	G162	
64	甕302	甕	(8.6)		口2/3	暗赤	雲母、灰、褐色粒	口縁1/2割、口縁～胴部ハケメのち線状	ミガキ	G-120	G145・206	
65	甕302	甕 A2		8.9	縮み片底完	暗赤～灰褐	石灰、灰、褐色粒	胴上工具ナデのちミガキ条痕、縮部底縁4本、胴上工具ナデのちミガキ条痕	ミガキ・工具ナデ	G-126	G164	
66	甕302	甕 D	(14.8)		口1/4	暗赤	灰、褐色粒	縮ヨコナデのちミガキ、縮部～胴上線状、胴下ミガキ	ミガキ	G-116	G166	
67	甕302	甕		(6.0)	底2/3	暗赤	灰、褐色粒	胴上ハケメのち線状・割状、胴下ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	G-60	G249・305、表706	
68	甕302	高杯	(17.8)		口1/10	灰	長石、白色粒	口縁縮、ミガキ	ミガキ条痕	G-82	G250	内外赤影
69	甕302	鉢	(20.9)		口1/10	灰	白色粒	ミガキ条痕	ミガキ	G-89	G256	内外赤影、高杯の可能性
70	甕302	高杯			縮部縮片	暗赤～灰褐	雲母、灰、褐色粒	ミガキ・ナデ	G-44	G299	内外赤影	
71	甕302	甕?		(4.0)	底1/3	暗赤	白色粒	ナデ、底部ナデ	工具ナデ	G-92	G256	内外赤影付着
72	甕302	じつ? 甕		3.4	底完	暗赤褐	灰、褐色粒	ナデ、底部ナデのちケズリ	ナデ	G-76	G290	
73	甕302	甕?		5.2	底1/2	暗赤	長石、白色粒	摩滅	摩滅	G-87	G255	
74	甕302	鉢?		(7.0)	底1/6	暗赤	雲母、石灰、白色粒	ミガキ条痕、底部ミガキ条痕?	ミガキ条痕	G-90	G256	
75	甕302	じつ? 高杯 (2.4)	(4.2)	3.5	口一部縮完	暗赤	雲母、灰、褐色粒	工具ナデ?、ヨコナデ・ナデ	工具ナデ	G-77	G309	
76	甕302	甕		(8.9)	底2/5	暗赤～灰褐	雲母、長石、灰、褐色粒	ミガキ、底部ナデのちミガキ条痕	ミガキ	G-45	G290	
77	甕302	甕		(7.4)	底1/6	暗赤	長石、白色粒	ミガキ条痕	ミガキ	G-91	G252	
78	甕1	高杯		(14.4)	口1/12	暗赤	灰褐色粒	ミガキ条痕	ミガキ	G-79	G203	内外赤影
79	甕1	高杯			縮部縮	暗赤～赤褐	灰、褐色粒	ミガキ・工具ナデ、縮付凸条状	ミガキ	G-114	G193	内外赤影(摩滅)
80	甕1	甕		(10.1)	底完	暗赤～黒褐	雲母、灰、褐色粒	胴部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメ	G-115	G206・227・053	
81	甕1	甕		9.0	底2/4	暗赤～黒	雲母、白色粒	胴部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメ	G-122	G202・027・053	外赤～黒灰染
82	甕1	甕 A	(12.6)		口1/12	暗赤	雲母、灰、褐色粒	口縁ヨコナデ、頸部縮状、胴上より穿孔(単位不明)	ハケメ	G-108	G025	
83	甕1	甕			縮部片底一部	暗赤～暗褐	雲母、灰、褐色粒	ハケメのちミガキ	ハケメ	G-102	G202・027・053	
84	甕1	甕			縮部片底	暗赤、褐色粒	雲母、褐色粒	胴上ハケメのち線縮部ト・線状、胴下ハケメのちケズリ・ミガキ	ハケメ	G-29	G005	外赤一部黒染
85	甕1	甕 B	(17.8)		口1/5	灰褐～暗褐	雲母、灰、褐色粒	口縁縮状、胴・頸部底状摩滅	ナデ・ハケメ摩滅	G-104	G002・058	
86	甕1	甕 C	(16.0)		口1/3	暗赤	石灰、灰、褐色粒	口縁1/2割、口縁縮状・ハケメ尾、頸部縮状、胴上線状	ミガキ	G-63	G211	
87	甕1	甕 A2	(17.5)		口1/14	暗赤～黒	雲母、灰、褐色粒	口縁1/2割、頸部縮状、胴部縮状、胴部ハケメのち線状条痕	ハケメのちミガキ	G-113	G053	
88	甕1	高杯		8.4	底2/3	暗赤	石灰、白色粒	ミガキ・工具ナデ	ミガキ	G-86	G006	外赤赤影
89	甕1	高杯?		7.8	底1/2	暗赤	長石、白色粒	摩滅・ヨコナデ・工具ナデ	ミガキ	G-84	G008	
90	甕1	じつ?		3.6	底完	暗赤	雲母、灰、褐色粒	ケズリ、底部ナデ	ナデ	G-70	G011	
91	甕1	甕		(6.1)	底1/2	暗赤	雲母、長石、白色粒	ミガキ	ミガキ	G-86	G002	
92	甕2	鉢		(6.2)	底2/3	暗赤～赤褐	雲母、灰、褐色粒	上半赤影・ミガキ、下半ケズリのちミガキ(赤影なし)、底縁ケズリ	ミガキ	44-1	G402	内面赤影・2孔
93	甕2	鉢		(18.0)	口1/3	暗赤	灰、褐色粒	ミガキ条痕	ハケメのちミガキ	G-99	G042	2孔(単位不明、外赤ら唇口)
94	甕2	甕?		(14.9)	口1/10	暗赤～赤褐	雲母、灰、褐色粒	ミガキ、片口付	ミガキ	46-6	46b・49b	内外赤影
95	甕2	甕		4.4	底完	暗赤	雲母	摩滅	摩滅	G-88	G012	
96	甕2	台付甕		8.1	底完	暗赤～暗褐	灰、褐色粒	ハケメ・ヨコナデ・ナデ	胴上ハケメ	44-5	44a・43b	
97	甕2	鉢		6.0	底2/4	暗赤～黒	雲母、灰、褐色粒	ミガキ条痕、底縁ミガキ条痕	ミガキ	46-8	46b・49b・43b	内面赤影
98	甕2	鉢		7.8	底完	暗赤～黒	灰、褐色粒	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	44-4	44a・41b	内外赤影
99	甕2	甕		(6.4)	底完	暗赤	灰色	細いミガキ・ケズリ、底縁ナデ・ケズリ	細いミガキ	G-69	G040	
100	甕2	片口鉢		(10.8)	口1/3	暗赤	雲母、灰、褐色粒	口縁ヨコナデ・ハケメ	ハケメ	G-27	G033	
101	甕2	甕		(12.3)	口1/5	暗赤	灰、褐色粒	口縁・口縁1/2割摩滅・山形沈線・ボタン状貼付、頸部縮状、胴上線状のち縮い片口付	ミガキ条痕	G-105	G044	台付甕の可能性
102	甕2	甕 B1	(17.4)		口1/僅	暗赤～黒	雲母、灰、褐色粒	口縁1/2割摩滅、頸部・胴上線状	ハケメのち細いミガキ?	46-4	46b・43b	
103	甕2	甕 A1	(15.8)		口1/3	暗赤	灰、褐色粒	口縁縮状、頸部縮状、胴上線状条痕	ミガキ	44-7	44b・409・411	
104	甕2	甕 A1	(15.6)		口1/3	暗赤～暗褐	雲母、灰、褐色粒	口縁1/2割、頸部ハケメのち線状条痕	ハケメ	G-50	G043、G271	
106	甕2	甕		(10.4)	底1/2	暗赤～暗褐	灰色	胴下ハケメ摩滅、底部ナデ	ハケメ摩滅・ナデ	G-59	G038・411	外赤～黒直現象
106	甕2	甕 B1	(28.0)		口1/5	暗赤～暗褐	灰、褐色粒	口縁・口縁1/2割摩滅のち山形、胴部ハケメのちミガキ条痕・線状	ミガキ	46-1	46b・41b・442・G011-033・034-038	
107	甕3	甕 A1			縮部片底	暗赤～暗褐	灰、褐色粒	ハケメ・ミガキのち縮部5単位黒染、胴下ミガキのち黒染横線・黒染	ナデ摩滅・ハケメ	G-38	G148・151・152	内面上部黒染・下部斜線黒影
108	甕3	甕			縮部片底	暗赤	長石、灰、褐色粒	上線縮みのミガキ・下部縮付(4単位)、腹方向のミガキ	工具ナデ・ハケメ	G-38	G149・152	外赤赤影
109	甕4	甕		(10.8)	口1/3	暗赤～黒	雲母、石灰、灰、褐色粒	口縁1/2割、頸部ハケメ・沈線	ミガキ条痕	G-36	G284	
110	甕4	高杯		8.2	縮部片底	暗赤～暗褐	雲母、長石、灰、褐色粒	ミガキ条痕?・凸条付・キゾミ・ヨコナデ	ミガキ条痕?	G-37	G284	内面赤影
111	甕4	甕		6.6	底2/3	暗赤～黒	雲母、灰、褐色粒	ハケメのちミガキ・ナデ	ハケメのちミガキ	G-33	G276	

号	地点	形式		寸法		残存数	色調	船士	航路・調査		実測No.	注記	備考
		船種	船形	船高	口径				航路	調査			
112	舟4	山							瀬田川・沈船4本、ミガキ岸線	新船岸線	G-2	G579-283	
113	舟4	山			(7.3)	底2/3	濁・灰濁	瀬田川	瀬田川・ミガキ岸線(津島)・重部ナデ	工員ナデ岸線・ナデ	G-34	G272	
114	舟4	山	A1						ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ハケメのちミガキ岸線	G-10	G278-280	
115	舟4	山		(12.0)		口1/4	濁・灰濁		口津ヨコナデ・ハケメのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	G-47	G286	
116	舟4	山			(8.0)	底2/3	濁・灰濁		ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ナデ	G-35	G279	
117	舟4	山			9.4	底2/3	濁・灰濁		ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ハケメのちミガキ岸線	G-52	G273-283	
118	舟4	山	A	(21.6)		口1/3	濁・灰濁		ミガキ岸線・重部ナデ	ハケメのちミガキ岸線	G-43	G275-277-284-286-290	119と同一体か
119	舟4	山			7.0	底2/3	濁・灰濁		ケズリのちミガキ岸線・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	G-49	G275-277-284-286-290	118と同一体か
120	舟4	山	A2	(26.0)	(22.4)	8.4	口0/12底一部欠	濁・灰濁	口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線・重部ナデ	ハケメのちミガキ岸線	G-104	G269-283-284	
121	舟43位	舟	舟	1.55	3.2	1.4	口・底欠	濁・灰濁	口津ヨコナデ・ナデ・重部ナデ	ナデ	G-73	G722	
122	舟43位	舟	舟	2.25	3.6	2.4	口・底欠	濁・灰濁	口津ヨコナデ・ミガキ岸線・重部ナデ	G-72	G724		
123	舟43位	山	A2						瀬田川・沈船・沈船・工員ナデのちハケメのちミガキ岸線	工員ナデ・ハケメ	48-6	G113-386-388-390	瀬田川沈船等孔
124	舟43位	山	舟	(17.0)		口1/8	濁・灰濁		ミガキ岸線	ミガキ岸線	43-4	G382	内面赤彫
125	舟43位	山	舟	(18.4)		口1/12	濁・灰濁		口津ヨコナデ・ケズリのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-107	G723	一面沈付層
126	舟43位	山	舟						瀬田川・沈船・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-100	G723	内面赤彫
127	舟43位	山	舟	(11.3)		口1/4	濁・灰濁		瀬田川・沈船・重部ナデのちミガキ岸線	重部ナデ	G-7	G391	
128	舟43位	山	舟		5.6	底欠	濁・灰濁		ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ミガキ岸線	43-3	483378	
129	舟43位	山	A1	(14.2)		口1/2	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	43-1	G382	
130	舟43位	山	B1	(12.0)		口3/4	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	G-1	G112-113	付層の可塑性
131	舟43位	山	舟	(23.6)		口1/8	濁・灰濁		口津ヨコナデ・口津岸線	ナデ岸線			
132	舟43位	山	舟		5.8	底欠	濁・灰濁		ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ハケメのちミガキ岸線	43-2	438372	
133	舟43位	山	舟		6.2	底欠	濁・灰濁		ハケメのちミガキ岸線・重部ナデ	ミガキ岸線	G-108	G074	内面赤彫
134	舟43位	山	舟	(11.0)		口1/8	濁・灰濁		ミガキ岸線	ミガキ岸線	46-3	483461	
135	舟43位	山	B1	(13.4)		口1/12	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	46-2	483441	付層の可塑性
136	舟43位	山	舟	(17.2)		口1/8	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-103	G088	
137	舟43位	山	舟	(5.0)		底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線	ミガキ岸線	G-110	G094	内面赤彫
138	舟43位	山	B1	(16.6)		口1/8	濁・灰濁		口津ヨコナデ・口津岸線	ハケメのちミガキ岸線	48-1	G477	
139	舟43位	山	舟	(7.0)		底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線	ミガキ岸線	G-109	G089	内面赤彫
140	舟43位	山	舟	(20.2)		口1/2	濁・灰濁		ミガキ岸線	ミガキ岸線	G-80	G117	内面赤彫
141	舟43位	山	舟	(12.4)		口1/8	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメのちミガキ岸線	G-66	G131	内面一部黒彫
142	舟43位	山	A	(23.1)		口1/10	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-9	G483	
143	舟43位	山	舟	(8.2)		底欠	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-65	G186	
144	舟43位	山	舟		9.0	底欠	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	49-2	G482	
145	舟43位	山	舟		6.8	底欠	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-98	G261	
146	舟43位	山	舟	(6.8)		底欠	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-97		
147	舟43位	山	舟	(5.9)		底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・ナデ・重部ナデ	工員ナデのちミガキ岸線	G-41	G305	
148	舟43位	山	舟	(10.5)		底欠	濁・灰濁		工員ナデのちミガキ岸線・重部ナデ	ハケメ	G-40	G305	
149	舟43位	山	舟		7.6	底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・工員ナデ	ミガキ岸線	G-68	G509	
150	舟43位	山	舟		7.6	底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・ケズリ・重部ナデ	工員ナデ	G-9	G313	
151	舟43位	山	舟	(9.0)		底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・ケズリ・重部ナデのちミガキ岸線	G-63	G313		
152	舟43位	山	舟	(14.0)		口1/8	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	口津ヨコナデ・重部ナデ	G-6	G313	内面赤彫
153	舟43位	山	舟	(8.6)		底欠	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ミガキ岸線	G-17	G324	
154	舟43位	山	舟		5.4	底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・重部ナデ	ナデ	G-8	G322	
155	舟43位	山	舟	8.2	4.6	5.0	口・底欠一部欠	濁・灰濁	ヨコナデ・船ナデ・指図岸線・ミガキのち岸線	ミガキ岸線	G-70	G725	内面一部・外黒彫
156	舟43位	山	A1						ハケメ・重部ナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメ・工員ナデ・重部ナデ	G-4	G321-323	
157	舟43位	山	舟	(8.4)		口1/4	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデ	ミガキ岸線	G-11	G306	
158	舟43位	山	A2	25.2	(10.5)	(6.25)	口2/3底1/4	濁・灰濁	口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線・重部ナデ	ミガキ岸線・ナデ・ハケメのちミガキ岸線	G-32	G321	
159	舟43位	山	舟						口津ヨコナデ・重部ナデ	工員ナデ	48-14	8700	
160	舟43位	山	舟	(3.4)		口1/3	濁・灰濁		口津ヨコナデ・重部ナデ	ナデ	48-11	8706	
161	舟43位	山	舟						ミガキ岸線	ミガキ岸線	48-10	8705	内面赤彫
162	舟43位	山	舟		3.2	底一部欠	濁・灰濁		ナデ	ナデ	48-3	8697	内面一部沈付層
163	舟43位	山	舟		3.9	底一部欠	濁・灰濁		工員ナデ・重部ナデ	工員ナデ	48-2	8693	
164	舟43位	山	舟		4.3	底欠	濁・灰濁		ミガキ岸線・ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ミガキ岸線	48-1	8698	
165	舟43位	山	舟		5.5	底欠	濁・灰濁		凸形付層のちミガキ岸線・ヨコナデ岸線	ミガキ岸線	48-13	8699	表面黒彫・刺層黒しい
166	舟43位	山	舟		6.0	底欠	濁・灰濁		重部ナデのちミガキ岸線・ヨコナデ・ナデ	ミガキ岸線	48-7	8697	
167	舟43位	山	舟						口津ヨコナデ・重部ナデのちミガキ岸線	ハケメ		721	内面付層

番号	地点	形式	部位	紋様・図案		実測 No.	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
				内厨	外厨								内厨	外厨			
171	51住	造	口	口唇L.R.線、綫、ナゾ		51-3	G122		222	51住	造	欄間	帯等線状、扇形線状、内：今や廻いミガキ	51-13	G177		
172	51住	造	口	口唇綫、綫+雲山形、横綫、ナゾ		51-24	G182		223	51住	造	扉	帯等線状多段、内：廻いミガキ	51-14	G177		
173	51住	造	口	ナゾ、帯線状		51-27	G186		224	51住	造	扉	ナゾ、帯線状、内：廻いミガキ	51-22	G188		
174	51住	造	口	L.R.綫、内：ミガキ		51-40	G238		225	51住	造	扉	ナゾ、扇形行条巻	51-28	G188		
175	51住	造	口	L.R.綫、帯等線状		51-88	G511		226	51住	造	扉	帯線状+縦の帯線下	51-32	G234		
176	51住	造	口	口唇L.R.綫、L.R.綫+雲山形、帯等線状、内：ミガキ+ナゾ		51-31	G234		227	51住	造	加飾	帯等線状、帯線状、内：ミガキ	51-33	G234		
177	51住	造	口	口唇綫、L.R.綫+帯等線状、ミガキ		51-41	G238		228	51住	造	加飾	帯等線状、帯等線状	51-42	G238		
178	51住	造	口	口唇L.R.綫、帯線状		51-44	G238		229	51住	造	扉	ハケム、帯線状、内：今や廻いミガキ	51-45	G238		
179	51住	造	口	口唇L.R.綫、L.R.綫+雲山形、扇形線状、内：ミガキ		51-69	G497		230	51住	造	扉	帯線状+縦の帯線下、内：ミガキ	51-46	G238		
180	51住	加飾	口	口唇L.R.綫、L.R.綫、内：廻いミガキ		51-116	G513		231	51住	造	加飾	帯等線状、ハケム	51-48	G281		
181	51住	造	口	帯線状、ナゾ		51-80	G511		232	51住	造	加飾	扇形線状、ハケム	51-50	G453		
182	51住	造	口	口唇L.R.綫、L.R.綫+雲山形、内：ミガキ		51-43	G238		233	51住	造	扉	帯線状+縦の帯線状、ナゾのち廻いミガキ	51-51	G453		
183	51住	造	口	口唇L.R.綫、L.R.綫+雲山形		51-118	G513		234	51住	造	扉	扇形線状、内：ミガキ	51-52	G453		
184	51住	造	口	ナゾ、ミガキ、横+帯等線		51-2	G121		235	51住	造	扉	帯等線状、内：廻いミガキ	51-53	G454		
185	51住	造	口	L.R.綫+帯等線、今や帯線		51-5	G122		236	51住	造	扉	帯等線状	51-54	G454		
186	51住	造	口	L.R.綫+帯等線、山形		51-4	G121		237	51住	造	扉	帯線状+縦の帯線下、内：廻いミガキ	51-60	G475		
187	51住	造	口	帯線状による帯線		51-12	G177		238	51住	造	扉	帯等線状	51-59	G475		
188	51住	造	口	横文+雲山山形、ボタン状貼付		51-9	G174	外国来形	239	51住	造	扉	帯線状	51-61	G475		
189	51住	造	口	凸帯+横、厚線		51-8	G174		240	51住	造	扉	帯線状	51-58	G474		
190	51住	造	口	雲山山形2段、横綫		51-6	G122		241	51住	造	扉	L.R.綫+雲山形、横綫	51-57	G474		
191	51住	造	口	雲山山形、横綫厚線、内：ミガキ厚線		51-15	G177		242	51住	造	扉	帯線状、内：ミガキ	51-58	G474		
192	51住	造	口	帯線状、帯線状+修飾下		51-17	G177		243	51住	造	扉	扇形線状、扇形線状(斜行条巻)、内：ミガキ	51-67	G509		
193	51住	造	口	L.R.綫、綫+雲山山形、内：斜ハケム		51-20	G181		244	51住	造	扉	ハケム、帯線状	51-66	G509		
194	51住	造	口	L.R.綫+雲山山形		51-19	G181		245	51住	造	扉	帯線状、内：廻いミガキ	51-68	G509		
195	51住	造	口	縦の帯、雲山山形による帯線、ミガキ		51-18	G178		246	51住	造	扉	ハケム、扇形線状一部ミガキ、内：ズリ状縁廻ミガキ	51-62	G494		
196	51住	造	口	帯線状+雲山山形		51-26	G183		247	51住	造	扉	帯線状	51-70	G511		
197	51住	造	口	L.R.綫+雲山山形、雲刺突、横綫		51-36	G237		248	51住	造	扉	帯線状+ボタン状貼付	51-69	G509	付付葉?	
198	51住	造	口	L.R.綫+帯等線+斜文		51-47	G238		249	51住	造	扉	帯線状	51-72	G611		
199	51住	造	口	L.R.綫+雲山山形、横綫厚線		51-49	G238		250	51住	造	扉	帯等線状	51-74	G511		
200	51住	造	口	L.R.綫+雲山山形、雲刺突		51-29	G188		251	51住	造	扉	帯等線状	51-71	G511		
201	51住	造	口	凸帯+L.R.綫		51-64	G508	外国全体赤彫染	252	51住	造	扉	ハケム	51-73	G511		外扉裏化物付葉
202	51住	造	口	ナゾ、凸帯上に雲キザミ		51-79	G611		253	51住	造	扉	帯線状、ハケム、ナゾ	51-77	G511		
203	51住	造	口	L.R.綫+帯等線		51-89	G511		254	51住	付付葉	扉	雲の字雲ね、ボタン状貼付、内ハケムのちミガキ	51-78	G511		
204	51住	造	口	L.R.綫+帯等線		51-81	G511		255	51住	造	扉	ハケム、内：ハケムのち廻いミガキ	51-75	G511		
205	51住	造	口	L.R.綫+帯等線		51-91	G511		256	51住	造	扉	帯線状、内：ハケムのち廻いミガキ	51-84	G511		
206	51住	造	口	L.R.綫+帯等線、ていわいなナゾ		51-108	G512		257	51住	付付葉	扉	雲の字雲ね、内：ミガキ	51-83	G511		
207	51住	造	口	L.R.綫+帯等線		51-110	G512		258	51住	造	扉	帯線状、内：廻いミガキ	51-85	G511		
208	51住	造	口	帯線状、扇形線状、内：ミガキ		51-21	G176	葉?	259	51住	造	扉	ハケムのち帯線、内：ハケムのち廻いミガキ	51-87	G511		
209	51住	造	口	凸帯+L.R.綫		51-26	G181	外国来形	260	51住	造	扉	扇形線状、内：ハケムのち廻いミガキ	51-88	G511		
210	51住	造	口	L.R.綫+雲山山形、横綫		51-37	G237		261	51住	造	扉	帯線状+帯下する雲山形	51-90	G511		
211	51住	造	口	口唇L.R.綫、帯等線下、内：ミガキ		51-107	G512	葉?	262	51住	造	扉	帯線状、内：廻いミガキ	51-92	G511		
212	51住	造	口	帯線状		51-82	G511		263	51住	造	扉	帯線状、内：ミガキ	51-93	G512		
213	51住	造	口	口唇L.R.綫、扇形線状、扇形線状、内：ミガキ		51-16	G177		264	51住	造	扉	扇形線状、内：ミガキ	51-96	G512		
214	51住	造	口	口唇L.R.綫、ナゾ、扇形線状		51-23	G183		265	51住	造	扉	扇形線状、内：廻いミガキ	51-98	G512		
215	51住	造	口	口唇L.R.綫、ナゾ+ハケム、内：廻いミガキ		51-10	G175		266	51住	造	扉	扇形線状、内：廻いミガキ	51-99	G512		
216	51住	造	口	口唇綫下、帯線状多段		51-35	G235		267	51住	造	扉	扇形線状	51-97	G512		
217	51住	造	口	口唇押注、帯等線状		51-76	G511		268	51住	造	扉	ハケムのち帯線状	51-100	G512		
218	51住	造	口	口唇L.R.綫+帯等キザミ、ナゾ		51-66	G463		269	51住	造	扉	扇形線状、内：ミガキ	51-101	G512		
219	51住	造	口	口唇帯等キザミ、ナゾ		51-118	G513		270	51住	造	扉	帯線状	51-102	G512		
220	51住	造	口	ハケムのち帯線状多段、内：今や廻いミガキ		51-1	G122		271	51住	造	扉	扇形線状、内：ミガキ	51-103	G512		
221	51住	造	口	帯等線状、扇形線状、内：廻いミガキ		51-7	G174		272	51住	造	扉	扇形線状、扇形線状、内：廻いミガキ	51-104	G512		

番号	地点	形式	部位	紋様・調査		実測 %	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調査		実測 %	注記	備考
				外周	内周								外周	内周			
273	51住	甍	新	縁巻倉(巻懸倉下)		51-109	G512		394	52住	倉?	新	花柄線、花刺突	52-110	G421	穿孔	
274	51住	裏	編織	縁守巻状、縁巻懸状		51-105	G512		325	52住	甍	口廻	目字ナギ、縁巻線、縁刺行巻倉。内:ミガキ	52-9	G072		
275	51住	裏	新	斜倉紙(縁巻状?)		51-106	G512		326	52住	甍	山	山形巻ナギミ、雲山形、縁波状	52-27	G094		
276	51住	裏	新	縁巻線		51-112	G418		327	52住	甍	山	山形巻線、縁波状	52-31	G097		
277	51住	裏	新	縁巻線状、内:ナゲのちミガキ		51-113	G512		328	52住	甍	山	山形巻線、縁波状	52-42	G410		
278	51住	裏	新	縁巻線状、内:ミガキ		51-114	G418		329	52住	甍	山	山形巻線、縁波状	52-43	G410		
279	51住	裏	新	縁波状+縁の巻懸線と巻線状倉下、内:横ミガキ		51-116	G513		330	52住	甍	山	山形巻線、縁波状	52-13	G104		
280	51住	倉付壁?	新	籠コの字巻下置		51-21	G181		331	52住	甍	山	山形巻線、縁波状?	52-32	G139		
281	51住	裏?	新	ミガキ、巻懸線、同波状倉下、内:ミガキ		51-34	G234		332	52住	甍	山	感太い巻山形	52-48	G412		
282	51住	倉付壁	新	籠コの字巻		61-38	G237		333	52住	甍	山	同巻ナギミ、巻線状	52-51	G412		
283	51住	裏	新	ハケメ、巻懸線(コの字巻ねの巻形?)		61-39	G237	倉付壁?	334	52住	甍	山	巻線状、縁波状?	52-61	G423		
284	51住	裏	新	縁波状+縁の巻懸下、内:ミガキ		31-95	G518		335	52住	甍	山	ハケメ	52-69	G423		
285	51住	裏	新	縁波状+縁の巻懸下+行形貼付、内:ハケメのちミガキ		51-94	G512		336	52住	甍	山	口廻巻ナギミ、巻線線	52-76	G423		
286	51住	倉付壁	新	籠コの字巻下置		51-111	G512		337	52住	甍	山	口廻巻ナギミ	52-53	G412		
287	52住	裏?	口	口廻山形巻、巻線状、巻懸線、内:ミガキ		52-7	G072		338	52住	甍	山	等巻状、縁刺行巻倉	52-56	G412		
288	52住	裏	口	口廻山形		52-101	G543	小孔穿孔	339	52住	甍	山	口廻巻線状、縁巻線状	52-82	G539		
289	52住	裏	新	ハケメ、L状線+雲山形+巻線		52-1	G056		340	52住	甍	山	雲山形	52-107	G546		
290	52住	裏	新	ミガキ、巻懸合巻線、巻線状		52-10	G078		341	52住	甍	山	口廻巻線、巻線状	52-60	G421		
291	52住	裏	新	ミガキ、巻線状+巻懸線		52-11	G073		342	52住	甍	山	等巻状、ハケメのち縁の巻倉?	52-91	G541		
292	52住	裏	新	巻懸線+斜線巻線		52-16	G104		343	52住	甍	山	口廻山形、L状線+雲山形、等巻状	32-92	G542		
293	52住	裏	新	ミガキ+ハケメ、L状線+巻懸線		52-3	G071		344	52住	甍	山	巻線線状	52-5	G171		
294	52住	裏	新	L状線+巻懸線+巻刺突、内:ミガキ		52-6	G072		345	52住	甍	山	縁波状+縁の巻懸線倉下	52-14	G104		
295	52住	裏	新	L状線+巻懸線+内:ミガキ		52-8	G072		346	52住	甍	山	巻線線状、縁刺行巻倉	52-18	G105		
296	52住	裏	新	L状線+巻懸線+巻刺突		62-12	G103		347	52住	甍	山	縁波状+縁の巻懸線倉下、内:ミガキ	52-2	G070		
297	52住	山	新	巻懸線+巻線線状+巻懸線+巻懸線		52-15	G104		348	52住	甍	山	等巻状、内:ミガキ	52-4	G071		
298	52住	裏	新	ハケメ、巻懸線の巻懸、巻線		52-28	G094		349	52住	甍	山	上巻線線状、巻線線状	52-21	G138		
299	52住	山	新	巻線+巻懸線		52-19	G105		350	52住	甍	山	等巻状、巻線状	52-26	G094		
300	52住	裏	新	巻+巻懸線		52-29	G096		351	52住	甍	山	巻懸線+縁の巻懸線倉下	52-33	G097		
301	52住	裏	新	L状線+雲山形		52-30	G097		352	52住	甍	山	巻線線状、巻線線状	52-32	G097		
302	52住	山	新	巻+雲山形、巻線		52-35	G097		353	52住	甍	山	縁の巻懸線倉下+巻線状	52-34	G097		
303	52住	裏	新	L状線+2本巻懸線+同巻刺突		52-26	G097		354	52住	甍	山	低い巻線状	52-17	G105		
304	52住	裏	新	同巻線+巻線線		63-38	G410		355	52住	甍	山	2本巻山形、巻線状	52-23	G139		
305	52住	裏	新	巻懸山形+巻刺突		52-54	G412		356	52住	甍	山	巻線線状(巻刺突同巻)、巻線線状	52-37	G133		
306	52住	裏	新	縁の巻山形+縁の巻山形倉下		63-41	G410		357	52住	甍	山	L状線、巻線線状、巻線線状	52-26	G094		
307	52住	山	新	巻懸線+巻刺突		52-25	G412		358	52住	甍	山	等巻状、巻線線状	52-20	G138		
308	52住	裏	新	L状線+巻懸山形		52-64	G422		359	52住	甍	山	巻懸線線、巻線線状	52-39	G410		
309	52住	裏	新	ハケメ		52-73	G423		360	52住	甍	山	ハケメ+巻線線状	52-40	G410		
310	52住	裏	新	巻+巻懸(2本巻?) 巻線		52-79	G639		361	52住	甍	山	ハケメ+巻線線状	52-46	G412		
311	52住	裏	新	L状線+巻懸線、巻+巻懸山形		62-88	G641		362	52住	甍	山	巻線線状	52-44	G410		
312	52住	山	新	巻懸線、巻懸線+巻懸線		52-86	G639		363	52住	甍	山	ハケメ+巻線線状?	52-45	G410		
313	52住	裏	新	低い巻線状?、巻線状+巻懸線		52-99	G543		364	52住	甍	山	巻線線状	52-47	G412		
314	52住	裏	新	L状線+巻懸線		62-77	G423		365	52住	甍	山	ハケメ+巻線線状	52-49	G412		
315	52住	裏	新	巻懸山形		52-80	G639		366	52住	甍	山	巻線線状	52-50	G412		
316	52住	裏?	新	斜倉紙		52-84	G639		367	52住	甍	山	巻線線状	52-52	G412		
317	52住	裏	新	凸帯+巻懸線+キザミ		52-87	G540		368	52住	甍?	山?	巻線線	52-61	G421		
318	52住	山	新	L状線+巻懸線+巻刺突		62-97	G642		369	52住	甍	山	等巻状?、巻線線状?	52-68	G421		
319	52住	裏	新	巻懸線+縁の巻線線倉下による巻懸		52-100	G543		370	52住	甍	山	ハケメ+縁刺行巻倉	52-57	G412		
320	52住	裏	新	巻+巻懸線		63-106	G645		371	52住	甍	山	巻線線、巻線線	52-63	G421		
321	52住	裏	新	L状線+雲山形		52-103	G644		372	52住	甍	山	巻懸線、巻線線	52-65	G422		
322	52住	山	新	巻刺突、巻懸線		52-102	G643		373	52住	甍	山	巻線線状	52-66	G423		
323	52住	山	新	巻懸線、縁の巻線線倉下		52-105	G545		374	52住	甍	山	ハケメ+巻線線状	52-67	G423		

番号	地立	形式	部取	款種・調整		実測 No.	注記	備考	番号	地立	形式	部位	款種・調整		実測 No.	注記	備考
				内面	外面								内面	外面			
375	52住	変	壁	ハケム+等張状		52-72	G423		426	溝302	変C	口	口壁・口縁LR鏡、等張状	溝302-32	溝679		
376	52住	変	壁	階階段状、ハケム+等張状		52-74	G423		427	溝302	変A	口	口壁・口縁、厚壁	溝302-33	溝679		
377	52住	変	壁	階段、壁の構造壁下+ボタン状貼付、等張状		52-70	G423		428	溝302	変A	口	口壁LR鏡、等張状	溝302-34	溝680		
378	52住	変	壁	階段壁、壁の構造壁下、等張状		52-68	G423		429	溝302	変B	口	口壁状、ナデ、内：廻いミガキ	溝302-36	溝681		
379	52住	変	壁	階段壁状		52-75	G423		430	溝302	変A	口	等張状、等張状	溝302-38	溝682		
380	52住	変	壁	階段壁状		52-78	G423		431	溝302	変B	口	階段状、等張状、階段壁状	溝302-40	溝683		
381	52住	変	壁	等張状、階段壁状		52-81	G539		432	溝302	合付壁	側	LR鏡+窓コの字壁、内：横ミガキ	溝302-7	溝658		
382	52住	変	壁	階段壁状		52-86	G540		433	溝302	壁	側	壁柱土留壁	溝302-15	溝670		
383	52住	変	壁	階段壁状		52-90	G540		434	溝302	壁	側	壁柱壁	溝302-25	溝672		
384	52住	変	壁	階段壁状		52-89	G541		435	溝302	合付壁	側	階段壁+壁の構造壁下+円形貼付	溝302-29	溝672		
385	52住	変	壁	階段壁状、階段壁状		52-93	G542		438	溝302	壁	側	階段壁状	溝302-26	溝672		
386	52住	変	壁	ハケム+壁の構造壁下+階段壁状		52-95	G542		437	溝302	壁	側	階段壁+壁の構造壁下+円形貼付	溝302-30	溝673		
387	52住	変	壁	等張状		52-83	G539		438	溝302	壁	側	階段壁+壁の構造壁下+円形貼付	溝302-27	溝672		
388	52住	変	壁	ハケム+階段壁状		52-96	G542		439	溝302	合付壁	側	階段壁+壁の構造壁下+円形貼付	溝302-39	溝682		
389	52住	変	壁	階段壁状、階段壁状		52-94	G542		440	溝302	壁	側	壁柱等張状、壁柱行条壁	溝302-35	溝681		
390	52住	変	壁	階段壁、階段壁状		52-98	G543		441	溝302	壁	側	等張状(壁柱側)・階段壁状、内：廻いミガキ	溝302-42	溝683		
391	52住	変	壁	階段壁状		52-104	G644		442	溝302	壁?	側	階段壁、壁柱土留壁	溝302-41	溝683		辺の可能性
392	52住	変	壁	階段壁状		53-108	G545		443	溝302	壁	口	ナデ、無段、内：LR鏡、壁キザミ	G-92	G232		
393	52住	変	壁	階段壁+壁の構造壁下		52-109	G545		444	溝302	壁	側	壁柱壁+階段壁状	G-98	G258		
394	52住	合付壁	壁	壁コの字壁		52-24	G141		445	溝302	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁・山形の壁下による壁壁	G-105	G292		
395	53住	壁?	壁	壁		53-1	G552		446	溝302	壁	側	ハケムのち山形・横壁	G-107	G297		
396	53住	壁	壁	階段壁状		53-2	G553		447	溝302	壁B	口	口縁壁山形、階段壁状	G-97	G258		
397	17坑	合付壁?	壁	LR鏡+壁コの字壁		G-111	G673		448	溝302	変A	口	口壁LR鏡、階段壁状、階段壁状	G-95	G246		
398	土坑	壁	壁	壁の壁山形壁下、壁柱壁+横壁		G-113	G607		449	溝302	変A	口	口壁キザミ、等張状、階段壁状	G-96	G247		
399	土坑	壁	壁	壁の壁山形壁下と内形側壁による壁壁		G-110	G585		450	溝302	変	側	壁(側一横壁) 短壁	G-106	G290		
400	土坑	壁	壁	階段壁+ボタン状貼付		G-112	G598		451	溝302	壁	側	階段壁+壁の構造壁2本壁下	G-99	G258		
401	溝302	壁B	口	口壁LR鏡、階段壁状		溝302-2	G215		452	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁・厚壁	G-1	G001		
402	溝302	壁B	口	LR鏡?、階段壁、内：ミガキ厚壁		溝302-5	溝652		453	床1	壁	側	壁山形+壁柱壁	G-4	G003		
403	溝302	壁B	口	LR鏡、ナデ、内：ミガキ		溝302-11	溝666		454	床1	壁	側	壁柱壁+階段壁状	G-6	G004		
404	溝302	壁	壁	壁柱壁+壁の構造壁によるT字B		溝302-1	G253	外壁本形壁	455	床1	壁?	側	等張状、壁による壁壁	G-7	G004		
405	溝302	壁?	壁	LR鏡		溝302-3	溝651		456	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁・壁柱壁+壁柱壁	G-15	G011		
406	溝302	壁	壁	等張状		溝302-12	溝670		457	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁	G-25	G029		
407	溝302	壁	壁	壁柱壁・側壁、壁しく厚壁		溝302-16	溝670		458	床1	壁	側	LR鏡+壁柱壁	G-20	G027		
408	溝302	壁	壁	凸等上壁、壁しく厚壁		溝302-18	溝672		459	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁壁下によるT字A	G-27	G029		
409	溝302	壁	壁	ミガキ厚壁、壁柱壁、内：ミガキ厚壁		溝302-17	溝670		460	床1	壁	側	ハケム+短壁	G-10	G011		
410	溝302	壁	壁	壁柱壁、階段壁状		溝302-19	溝672	外壁本形	461	床1	壁B	口	口壁LR鏡LR鏡等張、等張状	G-3	G002		
411	溝302	壁	壁	ハケム、側?+山形・横壁		溝302-21	溝672		462	床1	壁A	口	等張状	G-26	G029		
412	溝302	壁	壁	壁柱壁+壁柱壁、壁山山形		溝302-29	溝673		463	床1	壁B	口	LR鏡	G-8	G004		
413	溝302	壁?	壁	壁山形		溝302-22	溝672		464	床1	壁A	口	ココナデ、ハケムのち壁柱状	G-5	G004		
414	溝302	壁	壁	壁柱壁・山形、厚壁		溝302-37	溝681		465	床1	壁A	口	口壁LR鏡、等張状	G-13	G011		
415	溝302	壁A	口	壁柱壁+円形貼付		溝302-4	溝651	合付壁?	466	床1	壁A	口	口壁キザミ厚壁、等張状	G-34	G029		
416	溝302	壁B	口	口壁厚壁+壁山形+円形貼付、内：ミガキ		溝302-6	溝658		467	床1	壁B	口	口壁キザミ厚壁、ココナデ	G-12	G011		
417	溝302	壁B	口	口壁LR鏡、階段壁状、内：ミガキ		溝302-8	溝665		468	床1	壁B	口	口壁・口縁LR鏡	G-9	G009		
418	溝302	壁A	口	口壁厚壁、壁柱壁、内：ミガキ		溝302-9	溝666		469	床1	壁B	口	口壁LR鏡、口縁LR鏡+壁山形	G-21	G027		
419	溝302	壁A	口	口壁キザミ、ていねいなナデ、内：ミガキ		溝302-10	溝666		470	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁壁下+円形貼付	G-23	G029		
420	溝302	壁A	口	口壁キザミ、ナデ		溝302-13	溝670		471	床1	壁	側	壁柱壁+壁の構造壁壁下+円形貼付	G-32	G029		
421	溝302	壁A	口	口壁キザミ、ナデ		溝302-14	溝670		472	床1	壁	側	壁柱壁、壁柱壁状	G-22	G027		
422	溝302	壁A	口	口壁キザミ、ナデ、壁柱行条壁		溝302-23	溝672		473	床1	壁	側	壁柱壁、壁の構造壁壁下	G-11	G011		
423	溝302	壁B	口	口壁キザミ、壁柱壁、内：ミガキ		溝302-24	溝672		474	床1	壁	側	壁柱壁状	G-14	G011		
424	溝302	壁A	口	口壁厚壁、等張状、内：ミガキ厚壁		溝302-28	溝672		475	床1	壁	側	壁柱壁状	G-3	G002		
425	溝302	壁B	口	口壁厚壁、壁山山形、内：ミガキ		溝302-31	溝674		476	床2	壁	口	外：無段、内：LR鏡+壁山形、突起に沈壁	G-17	G015		

番号	地点	形式	部位	紋様・調整		発掘 No	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整		発掘 No	注記	備考
				外周	内周								外周	内周			
477	座2	造	口	外：無紋、内：L.R.調+藍山形、突起に沈線	G-31	G048			528	G	造	調	藍の半盤割産・無紋	G-85	G171		
478	座2	造	口	円形貼付、藍線調+L.R.線赤線	G-43	G444			529	G	造	調	藍波状+藍線調	G-84	G084		
479	座2	造	口	ハケメのちぎキザミ・無紋	G-33	G409			590	G	造	調	編+藍地盤、藍線調、無引引次	G-77	G123		
480	座2	造	口	ハケメのちぎ線輪・山形	G-109	G442			531	G	造	調	藍線調+藍引線赤線	G-100	G262		
481	座2	造	口	L.R.調	G-168	G442			532	G	造	調	無紋調、無線調	G-93	G236		
482	座2	造	口	L.R.調+藍線調・無線光緒	G-37	G411			533	G	造	調	藍線調内に藍の華道線と縁の藍山形による無産	G-87	G173		
483	座2	造	口	藍山形	G-35	G411			534	G	造	調	口口調、口口口本巻帯紋状、華道線	G-86	G172		
484	座2	造	口	無引引次+藍線調、藍山形内に藍山形光緒	G-34	G411			535	G	造	調	無線調・無引線光緒	G-88	G173		
485	座2	造	口	無引引次+藍山形、藍線調、ハケメ	G-38	G411			536	G	造	調	藍山形、藍線調	G-91	G202		
486	座2	造	口	L.R.調+藍山形	G-16	G014			537	G	造	調	L.R.調+藍山形	G-76	G142		
487	座2	造	口	口形調？、無波状	G-39	G411			538	G	造	調	無線調+無引線調	G-19	G022		
488	座2	造	口	口形無波状+円形貼付	G-36	G411			539	G	造	調	L.R.調+2本巻(藍調) 横線	G-74	G143		
489	座2	造	口	L.R.調+ハケメ	G-32	G409			540	G	造	調	口形波状、無波状	G-101	G264		
490	座2	造	口	L.R.調赤線	G-41	G411			541	G	造	調	2本巻波状、無波状	G-18	G022		
491	座2	造	口	無波状	G-40	G411			542	G	造	調	L.R.調、無波(無?) 横線	G-94	G230		
492	座2	造	口	口形無波状+円形貼付	G-30	G443			543	G	造	調	口形L.R.調、無波状	G-75	G143		
493	座3	造	口	無波状	G-80	G151			544	G	造	調	L.R.調赤線、無波状赤線	G-83	G084		
494	座3	造	口	口形無波状+円形貼付、無波状	G-81	G158			545	G	造	調	口形調、無波状+無線赤線+円形貼付	G-78	G123		
495	座3	造	口	無波状	G-79	G151			546	G	造	調	口形波状、無波状	G-90	G119		
496	座4	造	口	無引引次、無線調+L.R.調	G-103	G280			547	造	調	無線調+無引引次	検-1	検700			
497	座4	造	口	L.R.調赤線+藍山形、無波状	G-104	G285			548	造	調	赤線、無波状	51(52)-14	G129			
498	座4	造	口	無波状	G-102	G280			549	造	調	無線調内に無波状光緒の無産、内に藍山形赤線下	51(52)-16	G131			
499	座4位	造	口	無線調+無引引次	G-60	G076			550	造	調	L.R.調、無波状	検-5	検711			
500	座4位	造	口	L.R.調+藍山形	G-63	G077			551	造	調	L.R.調L.R.調、無波状	検-2	検700			
501	座4位	造	口	L.R.調+無線調+無波状	G-67	G076			552	造	調	口形調、無波状、無波状+円形貼付	検-4	検710			
502	座4位	造	口	無波状	G-49	G076			553	造	調	口形、口形L.R.調、無波状	検-3	検710			
503	座4位	造	口	L.R.調+藍山形	G-51	G076			554	造	調	無波状	51(52)-17	G132			
504	座4位	造	口	ハケメ+無波状	G-82	G077			555	造	調	無波状	51(52)-12	G090			
505	座4位	造	口	無波状+藍山形(藍調)	G-72	G109			556	造	調	無波状+無引引次	51(52)-13	G129			
506	座4位	造	口	無波状+藍山形(藍調)	G-46	G075			557	造	調	無波状+縁の無産線赤線下+円形貼付	51(52)-15	G131			
507	座4位	造	口	L.R.調+藍山形・無波状、無キザミ	G-48	G078			558	造	調	口の字重ね	51(52)-18	G131			
508	座4位	造	口	無波状	G-55	G389			559	造	調	円形沈線による方形紅面	G-28	G029	中野順康		
509	座4位	造	口	無波状	G-71	G393			560	造	調	無紋、紅調	G-12	G039	丸尾		
510	座4位	造	口	無波状、無線調	G-56	G389			561	造	調	無産線地盤+沈線による無草・無先	G-82	G168	中野順康		
511	座4位	造	口	L.R.調、無波状、無引引次	G-65	G391			562	造	調	円形区染沈線、無引引次	G-59	G389	中野中康		
512	座4位	造	口	L.R.調+2本巻無紋	G-63	G391			563	造	調	沈線による区染、無引引次	検-6	検093	中野中康		
513	座4位	造	口	無波状	G-66	G391			564	造	調	無引引次と沈線による区染	検-8	検710	中野中康		
514	座4位	造	口	ハケメ+無キザミ	G-69	G390			565	造	調	無産線と短先沈線	G-60	G389	中野順康		
515	座4位	造	口	無引引次+縁の無波状光緒+縁の無波状による無産	G-73	G385											
516	座4位	造	口	2本巻(藍調) 山形	G-70	G390											
517	座4位	造	口	L.R.調赤線+藍山形	G-67	G389											
518	座4位	造	口	無波状、無波状	G-62	G391											
519	座4位	造	口	無波状、無波状、無波状	G-67	G390											
520	座4位	造	口	無波状	G-58	G389											
521	座4位	造	口	口形L.R.調、L.R.調+藍山形	G-61	G391											
522	座4位	造	口	無波状、無引引次	G-46	G075											
523	座4位	造	口	無波状+2本巻無紋の無波状	G-54	G077											
524	座4位	造	口	無波状、無引引次	G-45	G075											
525	座4位	造	口	無波状	G-64	G391											
526	座4位	造	口	無波状	G-89	G113											
527	座4位	造	口	無波状	G-68	G390											

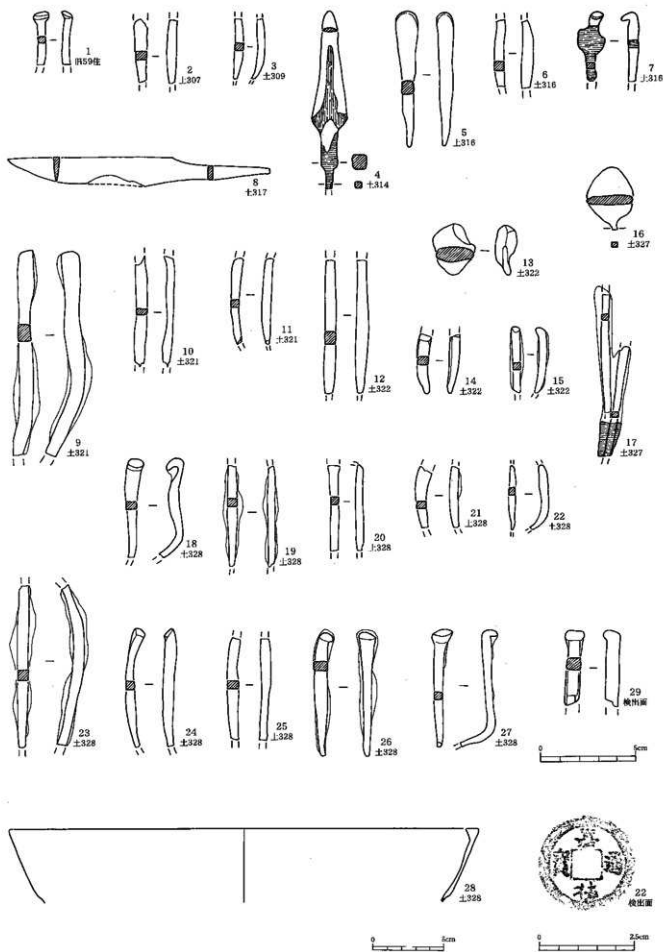
第6表 古墳時代土器観察表

No.	地点	種別	器種	残存度	口径	器高	底径	外糸色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測No.
1	横田出	土師器	付付甕	底1/6			7.4	淡褐色	ナデ, 肩部ヨコナデ	ナデ	前期	検-9
2	S1316	土師器	高杯	胴部のみ				暗褐色	ミガキ	工具ナデ		S-15
3	S1327	土師器	高杯	杯形一部				ミガキ				T-19
4	S302	土師器	高杯	口1/10	17.8			暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	下方腹ミガキ, 下方腹ミガキ		S-9
5	S302	土師器	高杯	胴部のみ				暗褐色	ミガキ	ナデ, 工具ナデ		S-6
6	S302	土師器	高杯	胴部のみ				黄褐色	縦ミガキ	しぼり面		S-2
7	S302	土師器	高杯	底1/2			13.4	黄褐色~暗褐色	縦ミガキ, 胴部ヨコナデ	ケズリ		S-5
8	S302	土師器	ミニチュア	口1/1底1/2	6.4	3.4	4.2	暗褐色	縦ミガキ, 口縁ヨコナデ	ナデ		S-8
9	S302	土師器	高杯	口1/1	14.2			黄~暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		S-11
10	S302	土師器	杯A	口一部	12			黄~暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		S-12
11	S302	土師器	小型丸底甕	口1/6	8.6			暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		S-7
12	S302	土師器	小型丸底甕	胴部				褐色	ミガキ	工具ナデ		S-1
13	S302	土師器	小形甕	口1/4	11			黄~灰褐色	ハケメ	工具ナデ		S-3
14	S302	土師器	甕	口1/6	13.6			暗褐色	ナデ, 口縁ヨコナデ	工具ナデ		S-10
15	S302	土師器	甕	口3/8	15.6			黄~暗褐色	工具ナデ, 口縁ヨコナデ	指ナデ, ハケメ		S-4
16	S30W18	土師器	甕	底壳				赤褐色	ハタケズリ	ハケメ状ナデ		G-49
17	S36W24	土師器	高杯	杯形一部				暗褐色~黒紫	ヨコミガキ	ヨコミガキ		G-13
18	S36W18	土師器	高杯	口1/10	17.7			暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ヨコミガキ		G-54
19	S27W05	土師器	高杯	口1/6	17			黄褐色	縦ミガキ	縦ミガキ		G-111
20	S36W24	土師器	高杯	杯形一部				暗褐色~黒紫	ミガキ	ミガキ		G-18
21	S34F27	土師器	高杯	杯形一部	16.2			暗褐色~黒紫	ミガキ	ハケメ		G-117
22	S30W27	土師器	高杯	胴部のみ				暗褐色	縦ミガキ, 口縁ヨコナデ	ナデ		G-39
23	S36W24	土師器	高杯	胴部のみ				暗褐色	縦ミガキ, 胴部ヨコナデ	工具ナデ		G-55
24	S36W24	土師器	高杯	胴部のみ				暗褐色	ミガキ	工具ナデ, しぼり面, ハケメ		S-5
25	S33W15	土師器	高杯	胴部のみ				赤褐色	縦ミガキ, 胴部ヨコナデ	ケズリ, ナデ		G-12
26	横田出	土師器	小型丸底甕	胴部				暗褐色	ミガキ	ミガキ		検-8
27	S21	土師器	甕	底壳			3.2	暗褐色	工具ナデ, ケズリ, 肩部ヨコナデ	工具ナデ		G-68
28	S30W18	土師器	甕	底壳			2.9	赤褐色	ナデ状のハケメ, 肩部ヨコナデ	ハケメ状のナデ		G-48
29	S30W21	土師器	甕	口1/8	14.6			暗褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		G-5
30	S36W24	土師器	甕	口1/3	17.4			赤褐色~暗褐色	ミガキ	工具ナデ		G-57
31	S36W18	土師器	甕	口3/4底壳	12.2	30.45	4.9	暗褐色~灰褐色	ハケメ(のちミガキ?)	ハケメ		G-53
32	S27W21	須恵器	杯蓋	口1/3	13			暗灰色	回転ハタケズリ, ロクロナデ	ロクロナデ	後期MT15式	G-93

第7表 奈良平安時代・中世土器陶磁器・土製品観察表

時期	調査No.	実測No.	出土地点	種別	器種	部分・残存度	口径	器高	底径	調整	備註	注記
奈良・平安	1	7	42-7	42位	灰褐色陶器	底1/1底				外: ロクロナデ, 内: 手捏成形	外: ロクロナデ, 下部回転ケズリ, 肩部まで植物, 内: ロクロナデ	751
奈良・平安	2	3	42-1	42位	土師器	杯AⅡ	口1/3底壳	10.1	2.3	5	ロクロナデ, 回転成形	752
奈良・平安	3	1	42-2	42位	土師器	杯AⅡ	口1/3底壳	9	2.2	4.6	ロクロナデ, 回転成形	752
奈良・平安	4	5	42-3	42位	土師器	甕	口壳底壳	9.55	2.8	5	ロクロナデ, 回転成形, 付高台	752
奈良・平安	5	6	42-4	42位	土師器	杯AⅡ	口1/3底壳	13.7	4	6.4	ロクロナデ, 回転成形	752
奈良・平安	6	4	42-5	42位	土師器	杯AⅡ	口1/4底壳	9.3	1.4	5.2	ロクロナデ, 回転成形	752
奈良・平安	7	2	42-5	42位	土師器	杯AⅡ	口1/2底壳	9.8	2.1	5	ロクロナデ, 回転成形	760
奈良・平安	8		42位	須恵器	杯蓋	口縁部					粗入	762
奈良・平安	9		42位	須恵器	杯	底					底	764
奈良・平安	10		S18W24	土製品	輪切口	端部					焼付付着, 粗入	376
奈良・平安	11		S18W24	土製品	輪切口	端部					焼付付着, 粗入	376
奈良・平安	12		S36W24	土師器	?	底部					口縁に何か?	344
奈良・平安	13		S36W24	須恵器	杯蓋?	底部						345
奈良・平安	14		S36W24	須恵器	杯	底部					回転成形	345
奈良・平安	15		S36W24	黒色土器A?	?	底部						345
奈良・平安	16		S36W24	須恵器	杯	口縁部						346
奈良・平安	17		S36W24	須恵器	杯	底部					回転成形	345
奈良・平安	18		S36W24	土師器	杯A?	口1/2	16.6				ロクロナデ, ヨコナデ	350
奈良・平安	19	8	S36W24	須恵器	黄赤色	口縁部					口外縁に黄赤色, 胎土中全粒, 縦21.5, 横16.0, 高さ4.3cm	693
奈良・平安	20		横田出	須恵器	杯	底部					黄赤色須恵器(1~5層: 特に2層)	693
奈良・平安	21		横田出	須恵器	杯蓋	底部					黄赤色須恵器(1~5層: 特に2層)	715
奈良・平安	22		土304	黒色土器A	杯	底部					回転成形	563
奈良・平安	23		土317	須恵器	杯	底部						577
奈良・平安	24		土317	須恵器	杯	口縁部						577
奈良・平安	25		土317	須恵器	杯	口縁部						577
奈良・平安	26	9	土14	土324	土師器	杯AⅡ	口1/6	9.35	2.05	5	ロクロナデ, 回転成形	581
中世	1		P308	陶器	甕	底部					東南系無釉陶器(常滑系)	613
中世	2	14	G-61	S34W33	陶器	須恵	口1/1	27.7			口縁肥厚, 口唇に溝, 粗粒, 東南系須恵陶器(倭投窯系), VⅡ類, 13C後半以降, 75と操作	222
中世	3		S36W24	土師器	甕	底部					丁型ねじ成形, 在産地, 13~14C	344
中世	4		S36W24	陶器	黄赤色	底部					東南系	346
中世	5		S36W21	陶器	須恵	口縁部					須恵系	354
中世	6		土316	土師器	甕	底部					手捏ねじ成形, 在産地, 13~14C	578
中世	7		土321	須恵器	?	底部					灰褐色土, 山成焼13C後半?	578
中世	8		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 東南系無釉陶器(倭投窯系), 13C	691
中世	9		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 東南系無釉陶器(倭投窯系), 13C	693
中世	10		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 東南系無釉陶器(倭投窯系), 13C	695
中世	11		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 外周褐色, 内周自然焼, 東海系	695
中世	12		横田出	陶器	常滑	底部					東南系無釉陶器(常滑系)	695
中世	13		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 外周褐色, 内周自然焼, 東海系	697
中世	14		横田出	陶器	?	底部					灰地, 古瀬戸系V20と同一體性	697
中世	15		横田出	陶器	須恵?	底部					須恵, 東海系	697
中世	16		横田出	陶器	須恵	底部					須恵, 東海系, 占原系陶器, 前期様式	697
中世	17		横田出	陶器	西耳瓮	底部						697

時期	遺物 No.	表層No.	出土地点	種別	器種	部分・残存部	口径	器高	底径	調整・胎土・色調・備考	注記
中世	18		機出庫	陶器	段鉢	全体				外周下平ケズリ。粗胎。13C。壁投置系	703
中世	19		機出庫	陶器	段鉢	口縁部				口縁肥厚。口唇に帆。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。互置。13C後半	711
中世	20		機出庫	陶器	皿?	口縁部				灰胎。口縁に段。15と同一個体?古瀬戸系陶器?積層様式。縁部は14Cの可能性	711
中世	21		±302	陶器	?	全体				灰胎。東海系無釉陶器(古瀬戸系陶器)?	682
中世	22		±302	陶器	段鉢	口縁部				口縁肥厚。口唇に溝。粗胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	561
中世	23		±307	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	565
中世	24		±307	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	566
中世	25	10	±307	陶器	段鉢	口I/10	22			口縁下平ケズリ。粗胎。外周褐色。内周褐色。13C。産地不明	565
中世	26		±309	陶器	段鉢	全体				外周下平I-2段のケズリ。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	567
中世	27		±309	陶器	段鉢	全体				外周下平ケズリ。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	567
中世	28		±309	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	567
中世	29		±309	陶器	変装類	全体				東海系無釉陶器(常滑系)。30と同一個体	567
中世	30		±309	陶器	変装類	全体				東海系無釉陶器(常滑系)。29と同一個体	567
中世	31		±311	青磁	碗	全体				赤丹焼。13C前半?	568
中世	32	11	±311	陶器	碗	底2/3			6.2	山茶碗。山台蓋部に節節状。外周青灰〜淡灰褐色。内周灰褐色。東渡。丸石3号型式?13C前半	569
中世	33	12	±311	青磁	碗	口I/6〜全体	11.8			細滑方鉢。13C前半?	570
中世	34		±316	陶器	変	腹部				2条の沈線。東海系無釉陶器(常滑系)	576
中世	35		±316	陶器	変	全体				東海系無釉陶器(常滑系)	576
中世	36		±316	陶器	段鉢	口縁部				口縁肥厚。口唇に溝。粗胎。東海系。13C後半	576
中世	37		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	38		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	39		±316	陶器	段鉢	口縁部				口縁下平さえ。面取り。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	40		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	576
中世	41		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	576
中世	42		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	43		±316	陶器	段鉢	口縁部				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	44		±316	陶器	段鉢	口縁部				端部外周面取り。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C前半	576
中世	45		±316	陶器	?	底部				高台。13C。粗胎でも山茶碗でもない。	576
中世	46		±316	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	47		±316	土師器	皿	口縁部				手履ね成形。心地上。13〜14C	576
中世	48		±316	土師器	皿	口縁部				手履ね成形。心地上。13〜14C	576
中世	49		±316	青磁	碗	全体				飯倉。13C前半	576
中世	50		±316	青磁	碗	全体				飯倉。13C前半	576
中世	51	16	±316	陶器	段鉢	口I/10	26.8			端部外周面取り。粗胎。外周灰色。内周灰色。東海系無釉陶器(壁投置系)。互置。13C前半	576
中世	52	15	±316	陶器	段鉢	口縁部	26			外周下平ケズリ。口縁肥厚。口唇に溝。粗胎。外周灰色。内周灰色。土3166中?12C後半?東海系(中野川産)。互置	576
中世	53	17	±316	陶器	段鉢	口I/5	30			片口付。口縁下平さえ。不定形口付。粗胎。外周灰〜褐色。内周〜褐色。東海系無釉陶器(壁投置系)。互置。13C	576
中世	54	18	±316	陶器	段鉢	口I/8	28.8			筒形。口縁下平さえ。粗胎。褐色胎多量混入。内周面取り質。残存の僅少	576
中世	55	19	±316	陶器	段鉢	全体			12.3	付高台。粗胎。外周灰色。内周灰色。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	576
中世	56		±321	陶器	変	腹部				東海系無釉陶器(常滑系)。14C後半〜15C	578
中世	57		±321	陶器	変装類	全体				東海系	578
中世	58		±321	陶器	変装類	腹部				東海系	578
中世	59		±321	陶器	変	全体				東海系無釉陶器(常滑系)。14C後半〜15C	578
中世	60		±321	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	578
中世	61		±321	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	578
中世	62		±321	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	578
中世	63	13	±321	陶器	変	口I/10	31			外:赤褐色。内:茶褐色。常滑。13C前半	578
中世	64		±321	青磁	碗	全体				鎌倉型。13C後半〜14C初葉?67と結合	578
中世	65		±322	陶器	?	全体				底部下平ケズリ?粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	580
中世	66		±322	陶器	?	全体				64と結合。鎌倉型。13C後半〜14C初葉?	580
中世	67		±322	青磁	碗	全体					580
中世	68	11	±322	陶器	新緑または新緑模風	底1/10			9.5	灰胎。外:淡灰色。内:淡灰色。東海系無釉陶器(古瀬戸系陶器)	580
中世	69		±322	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系	580
中世	70		±322	陶器	変装類	全体				東海系無釉陶器(常滑系)	580
中世	71		±328	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	589
中世	72		±328	陶器	段鉢	全体				粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C	589
中世	73		±328	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系無釉陶器(常滑系)	589
中世	74		±328	陶器	段鉢	口縁部				口縁下平さえ。粗胎。東海系無釉陶器(壁投置系)。13C。互置	589
中世	75	14	G-61	陶器	段鉢	全体				東海系無釉陶器(壁投置系)。13C後半以降。2と結合	589
中世	76		±328	陶器	段鉢	全体				精胎。外周褐色。内面自然焼。東海系	589
中世	77		±328	陶器	?	全体				内外面結核。口唇不滑。大淵(16C瓦風)?	589
中世	78		±328	青磁	碗	全体				細滑方鉢。筒形。鎌倉型。13C前半	589
中世	79		±328	青磁	碗	全体				細滑方鉢。筒形。鎌倉型。13C前半	589



第23图 金属器

第8表 金属製品一覧表

No.	出土地点	遺物の種類	時期	種類	重量	形状・形態、残存状況及び計測値	備考
1	甲51住	不詳	不詳	鉄釘	1.94g	頭部のみ残存。	
2	+307	井戸址	中世	楕状不明品	2.55g	鉄釘か？全長32mm、断面径7mm	
3	+309	井戸址	中世	楕状不明品	0.83g	鉄釘か？	
4	+314	土京	中世	鉄鏝	12.53g	基盤から約90度折れ曲がる。図では柄ばて表示。	
5	+316	井戸址	中世	鉄釘	2.98g	先端部破損。	
6	+316	井戸址	中世	楕状不明品	3.67g	鉄釘か？頭部、先端部共に破損。	
7	+316	井戸址	中世	鉄釘	8.53g	穴形。	
8	+317	聖穴状遺構	中世	刀子	13.16g	刃部中央破損。	
9	+321	井戸址	中世	楕状不明品	2.05g	鉄釘か？	
10	+321	井戸址	中世	鉄釘	4.46g	状態良好。先端部破損。	
11	+321	井戸址	中世	楕状不明品	32.90g	鉄釘か？	
12	+322	井戸址	中世	楕状不明品	4.64g		
13	+322	井戸址	中世	楕状不明品	7.40g	鉄釘か？	
14	+322	井戸址	中世	鉄釘	1.72g	先端部のみ残存。	
15	+322	井戸址	中世	鉄釘	2.55g		
16	+327	聖穴状遺構	中世	楕状不明品	8.09g	表面が錆で覆われ、断面は粗らか。	
17	+327	聖穴状遺構	中世	楕状不明品	14.54g	2本の鉄釘が差着したものか？	
18	+328	井戸址	中世	楕状不明品	12.09g	鉄釘か？	
19	+328	井戸址	中世	鉄釘	7.10g	完形。	
20	+328	井戸址	中世	鉄釘	6.22g	先端部破損。	
21	+328	井戸址	中世	鉄釘	5.98g	頭部、先端部共に破損。状態良好。	
22	+328	井戸址	中世	鉄釘	2.43g	錆付量少。先端部破損。	
23	+328	井戸址	中世	鉄釘	3.95g	先端部破損。	
24	+328	井戸址	中世	鉄釘	4.96g	頭部、先端部共に破損。	
25	+328	井戸址	中世	鉄釘	2.15g	頭部、先端部共に破損。	
26	+328	井戸址	中世	鉄釘	1.90g	頭部、先端部共に破損。	
27	+328	井戸址	中世	鉄釘	3.90g	先端部破損。	
28	+328	井戸址	中世	鉄鏝	15.23g	内耳鑄造片か。状態良好。口縁1/26残存。I径33.0cm。	
29	検出面	検出面	中世	鉄釘	6.05g	先端部破損。	
30	検出面	検出面	中世	銅鏡	2.23g	直径25mm。「嘉延通宝」の鏡（北宋で初鋳年1056）。	

第9表 自然遺物一覧表

No.	種別	遺構等の時期	種類	特徴・所見等	注記・出土地点	備考
1	42住	平安	炭化物	針葉樹の樹皮(杉?)片少々	42住No.12, 990521	
2	42住	平安	炭化物	不明	42住No.13, 990521	
3	42住	平安	炭化物	スズ	42住No.14, 990521	
4	42住	平安	炭化物	スズ	42住No.15, 990521	
5	42住	平安	炭化物	スズ	42住No.16, 990521	
6	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.17, 990521	
7	42住	平安	炭化物	スズ? (保存状態悪く不明)	42住No.18, 990521	
8	42住	平安	炭化物	スズ	42住No.19, 990521	
9	42住	平安	炭化物	微小にて不明	42住No.20, 990521	
10	42住	平安	炭化物	微小にて不明	42住No.21, 990521	
11	42住	平安	炭化物	スズ	42住No.22, 990521	
12	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.23, 990521	
13	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.24, 990521	
14	S18W27	養生	紅ガラ	Fe ₂ O ₃ 黄褐色~赤色	43住No.19, 990604	
15	S18W27	養生	紅ガラ	Fe ₂ O ₃ 黄褐色~赤色	43住No.19, 990604	
16	S15W24	養生	土	特になし	43住No.5, 990604	
17	S15W24	養生	炭化物	コナラ	50住No.11, 990604	
18	51住	養生	炭化物	コナラ小片多数	50住No.20, 990609	
19	51住	養生	土	掘土掘レキのみ	51住和埋壘, 990623	
20	53住	養生	土	特になし	53住No.3, 990626	
21	S09W15	養生	土	禾本科(アシ?)の炭化物少々	S09W15No.1, 990621	
22	S09W15	養生	土	徳土と炭化鉄の花黒物	S09W15, 990615	
23	S18W24	養生	土	徳土とその腐りに炭化鉄の沈着物が付着	S18W24, 990623	
24	S21W21	養生	炭化物	コナラ	S21W21, 990626	
25	S24W09	養生	炭化物	コナラ	S24W09, 990524	
26	S30W06	養生	炭化物	コナラ	S30W06, 990604	
27	検出面	中世	木片	コナラ	検出面, 990521	
28	+307	中世	炭化物	スズ	+307, 990521	
29	+307	中世	木片	スズ	+307, 990531	
30	+307	中世	木片	スズ材と樹皮	I, 307, 990531	
31	+315	平安~中世	炭化物	スズ	+315, 990520	
32	+316	中世	木片	スズ材と樹皮	+316No.1, 990528	
33	+316	中世	木片	スズ材と樹皮	+316No.2, 990528	
34	+316	中世	木片	スズの樹皮	+316No.3, 990528	
35	+316	中世	木片	スズの樹皮	+316No.4, 990528	
36	+316	中世	木片	スズの樹皮	+316No.5, 990528	
37	+316	中世	木片	スズの樹皮	I, 316, 990528	
38	+321	中世	木片	スズの樹皮	+321No.1, 990601	
39	+321	中世	木片	スズの樹皮	+321No.2, 990601	
40	+321	中世	木片	スズの樹皮	+321, 990531	
41	+321	中世	木片	スズの樹皮	+321, 990601	
42	+327	平安~中世	炭化物	スズ	+327, 990526	
43	+328	中世	木片	スズの樹皮	+328No.1, 990531	
44	+328	中世	土	炭の塵小片	+328No.5, 990602	
45	+328	中世	土	スズ殻の塵小片	+328No.6, 990602	
46	+328	中世	木片	スズの樹皮	+328, 990601	
47	+346	養生	炭化物	コナラ	+346, 990624	
48	溝302	古墳時代	炭化物	スズ	溝302W30, 990621	
49	溝302	古墳時代	土	特になし	溝302W30No.1, 990622	

4 石器

1. 石器群の概要

百瀬遺跡第IV次調査では検出面は不明であるものの弥生時代中期末、古墳時代中期、中世に帰属すると考えられる遺構が検出されると同時に、高密度の遺物包含層が確認された。3mグリッド単位で取り上げられた個体及び、検出面出土として取り上げられた個体が57%と全体の過半数を占めるものの、総点数1674点、総重量494,800.9gの石器が回収された。また第302号溝では古墳時代後期の土器が出土したことから小形石器の回収を目的とし、遺構覆土はすべて土嚢袋に採取され、その総数は443袋にのぼった。水洗備い作業を実施した結果、所謂白土15点を含む総点数479点、総重量298.8gの石器が回収された。本項では水洗備いにより回収された石器群は例愛し、現場段階において回収された1674点の石器群を対象とした⁽⁹⁰⁾。

石器の認定基準、回収基準及び回収精度が不明であり、なおかつ、検出面が不明であり、またグリッド回収遺物も帰属層が不明であることから、弥生中期石器群、古墳中期石器群及び中世石器群の厳密な分離は困難と判断した。その上で接合・母岩識別作業を行った結果、接合資料26例56点を含む同一母岩資料37例83点、(接合率3.3%,平均接合個体数2.15点,母岩識別率4.9%,単独率95.1%)を確認し得た。

2. 石材概観⁽⁹¹⁾ (第14・16表)

回収された石器群の点数比においては黒曜岩(37.4%)が圧倒的多数を占め、次いで硬砂岩(12.9%)、細粒硬砂岩(10.9%)が多い。組成率が1%を越える石材としては他に、花崗岩、礫質砂岩、珪質泥岩、変質凝灰岩、凝灰岩、変質粘板岩、チャートがある。接合資料が確認された石材としては、黒曜岩(1.4%)、溶質凝灰岩(16.0%)、花崗閃緑岩(11.1%)、花崗岩(2.3%)、蛇紋岩(13.3%)、細粒硬砂岩(4.3%)、硬砂岩(6.5%)、変質粘板岩(5.9%)、粘板岩(14.3%)、チャート(5.0%)、雲母片岩(100.0%)がある⁽⁹²⁾。

3. 器種概観⁽⁹⁴⁾ (第14・15表)

回収された石器群の点数比においては10%を越えるものとして剥片、微細剥離痕のある剥片、礫片、礫片複合がある。点数比が1%以上10%未満の器種としては石核、楔状石核、楔状剥片、鑑形石器、二次加工のある剥片、打製斧形石器、磨製鑑形石器、自然礫、礫片1類、礫片2類がある。所謂定形的な器種を主体とするその他の器種についてはその点数比は1%に満たなかった。

4. 母岩別資料概観 (第13表,第24~26図)⁽⁹³⁾

中世に帰属すると考えられる遺構より出土した石器群を除いたすべての、すなわち、その多くが弥生時代に帰属すると考えられる石器群に対し接合・母岩識別作業を実施したところ、接合資料21例46点を含む同一母岩資料31例71点を確認し得た。また、井戸並等中世に帰属すると考えられる遺構より出土した石器群においては、接合資料5例10点を含む同一母岩資料6例12点を確認し得た。ここではその多くが弥生時代に帰属すると考えられる石器群において確認し得た、遺構間かもしれないそれに準ずる接合資料を概観しておきたい。

FGHs01 R06 [693+706] (第26図) 切り合いを持たず約2mを隔てるSB53及びSK351に分布する、細粒硬砂岩製礫片及び礫片2類の遺構間接合資料である。残存率は約1/4程度である。

Ob02 R08 [1398-733-723] (第25図) 約20mを隔てるS30W6グリッド及び古墳時代中期とされるSD302W24-27に分布する、黒曜岩製剥片3点の接合資料である。残存率は約1/8程度と推定される。まず1398が通常剥離され、続いて733背面右側の剥離痕に対応する欠落剥片が通常剥離される。その後1398剥離軸より約45~90度の打面転移がなされ733が通常剥離される。733は主要剥離面形成後、瑕疵により打点部側が折れている(未回収)。その後1398剥離軸より約180度の打面転移がなされ、723背面左側の剥離痕群に対応する欠落剥片群が通常剥離され、723が通常剥離される。個体の分離順序及び平面分布から、1398がS30W6グリッドにおいて剥離され、その段階で石核がSD302W24-27に搬入され、その場で733及び723が連続して剥離されたと考えるのが妥当であろうか。本石器群中唯一の分離順序が確定する母岩である。

Ob03 R09 [736+1065] (第25図) 約6mを隔てる古墳時代中期とされるSD302W27及びS21W18グリッドに分布する、黒曜岩製楔状剥片2点の接合資料である。残存率は1/16程度と推定される。接合状態では通常剥離による剥片を素材とした楔状剥片であり、両側剥離中に分離したものと考えられる。両個体共に接合面を切る両側剥離痕が認められる。

FGHs03 R13 [809+1127] (第25図) 約12mを隔てるS9W9グリッド及びS24W6グリッドに分布する、細粒硬砂岩製楔状石核2点の接合資料である。残存率は1/4以下と推定される。捩理面に沿った剥離面で接合しており、両個体共に接合面を切る両側剥離痕が認められる。809には接合面及びそれを切る剥離痕群をさらに切る折れ面が認められる。

5. 小結

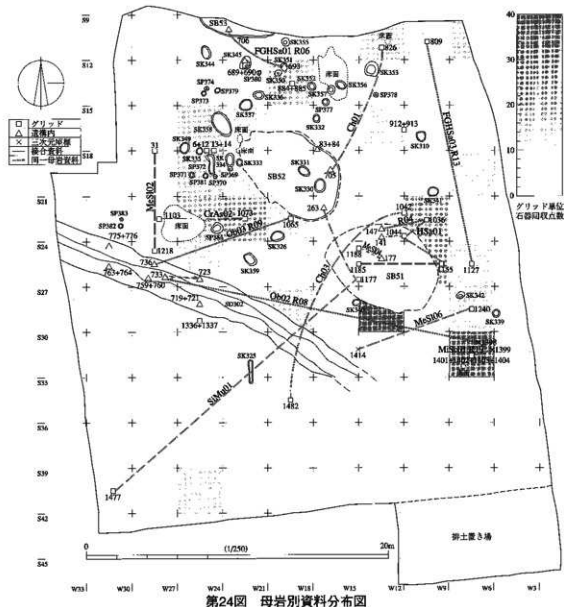
百瀬遺跡第Ⅳ次調査では検出面が不明であり、遺構の検出も困難な堆積状況、さらには遺物包含層の存在等、不利な条件が重なった中で、不明確な認定基準及び回収基準により石器が回収された。接合・母岩識別作業の結果、接合・同一母岩資料を確認し得たものの、層序不明のグリッド単位で回収された個体が多いことから三次元際際の判明する個体は著しく少なく、平面的な関係の示唆に止まらざるを得ない⁽⁹⁷⁾。

〔補註〕

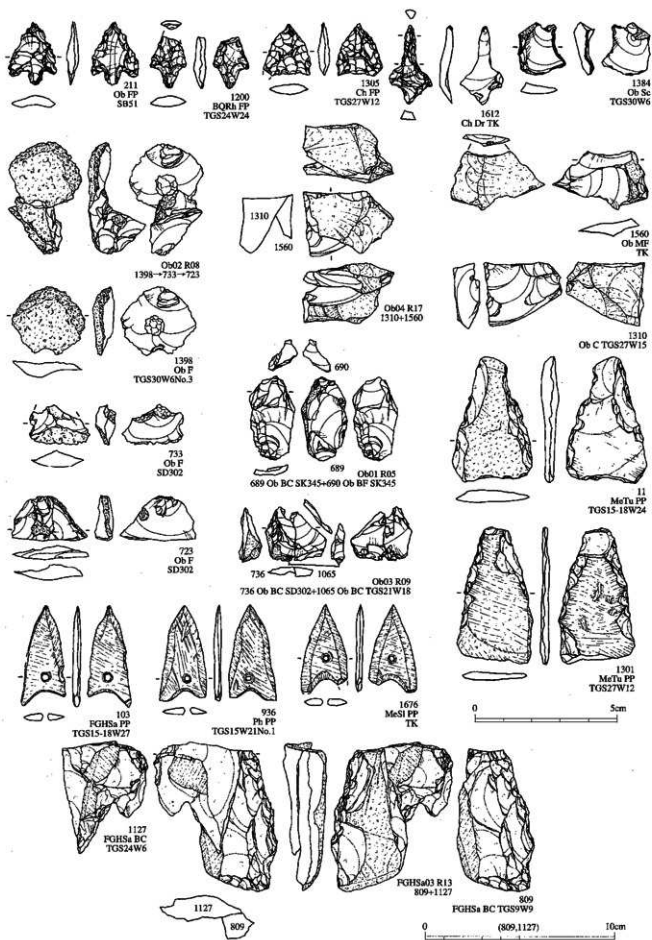
- 注1) しかしながら、接合・母岩識別作業は石器の認定基準、回収基準及び回収順度に直接の影響を受ける為、石器の認定基準、回収基準共に不明である本石器群の資料価値は必ずしも限定されてくる。また同様の理由から、石器群としての組成論も意味を成さないことを先にお断りしておくたい。
- 注2) 黒曜岩についてはある程度の回収率には達しているものと考えられるものの、黒曜岩以外の石材については任意の取捨選択の上回収された為、すべての石材種が回収されたとも言い切れず、質量共に不明といわざるを得ない。
- 注3) 石材鑑定にあたっては森 義直氏より有益な御教唆を頂いた。記して御礼申し上げます。
- 注4) 回収率のある程度保証される黒曜岩製の個体についてはある程度の回収率が予測されるものの、黒曜岩以外の個体については任意の取捨選択の上回収された為、すべての器種が回収されたとも言え切れず、質量共に不明といわざるを得ない。また、器種の分類基準は紙報の制約から留愛した。下記文献等を参照して頂きたい(太田 1998,2000)。
- 注5) 第24図においては接合・同一母岩資料のうち、検出面回収個体を含むものはプロットしていない。また、グリッド回収個体の集計においては複数のグリッド単位で取り上げられた個体は割愛し、3mグリッド単位で回収されたものに限定した。
- 注6) 第25・26図においては個体識別番号、石材略号、器種略号、出土遺構を記した。また、接合資料については母岩番号及び接合番号を付してある。
- 注7) いうまでもないが、現場段階で任意の取捨選択がなされた石器群に対していかなる操作をしようとも、母集団の復元は不可能である。

〔主要引用・参考文献〕

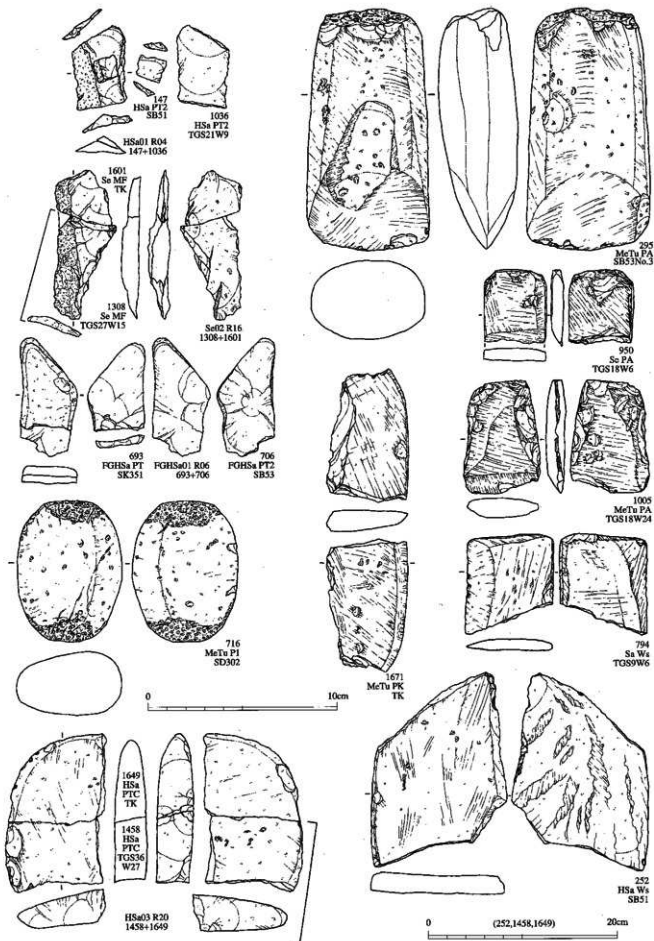
- 太田圭祐 1998 「石器・石製品」『地産遺跡・川西岡田遺跡Ⅰ・Ⅱ』松本市教育委員会 pp75～pp105
 太田圭祐 2000 「石器」『平瀬遺跡Ⅱ』松本市教育委員会 pp93～pp122
 加島幸祐 2001 「調査概要とまとめ」『平田北遺跡Ⅵ』松本市教育委員会 pp10



第24図 母岩別資料分布図



第25図 百瀬IV出土石器(その1)



第26図 百瀬Ⅳ出土石器 (その2)

VI 調査のまとめ

調査結果から百瀬遺跡が従来の範囲より北側に広がること、弥生時代中期末と中世の遺構と遺物の密度が高いこと、古墳時代中期と平安時代末期の遺構と遺物もみられることがわかった。以下では各時代毎に今回の調査の意義を述べていく。

縄紋時代 今回は中期土器のわずかな出土があったのみだが、第2次調査では早期・後期の遺物と遺構が検出されており、百瀬遺跡の範囲内に縄紋各時期の集落が点在することが窺える。

弥生時代 土器・石器を中心に多量の遺物が出土したが、調査地全体を当期の遺物包含層が厚く覆い、大半はここからの出土のため、帰属遺物の特定ができないか、遺物がまとまって出土した「床面」やグリッドなどかなり曖昧な名称で捉えることしかできなかった。時期は前述のとおり弥生時代中期末で、かつて百瀬式と型式設定されたものと同じである。最終的に、この時期の遺構は3軒の住居址と約40基の土坑ピットを確認したが、遺構確認面も覆土も同様な遺物包含層の土という状況を認めざるを得なかった。本遺跡における他地点の調査では弥生時代遺構はかなり明瞭に遺構確認面が捉えられており、今回は特異な例といえよう。その原因としては、今回の地点が、本遺跡を載せる段丘状地形が消滅する若干低い位置にあり、遺跡の北限区域であったことを挙げたい。すなわち、拠点的な集落の縁辺部にあって、居住地よりは廃棄エリアとして主に利用されていた可能性、あるいは段丘下で流路などの微弱的な影響をうけていた可能性を考えた。

出土遺物で特記される人面土器は、近年、栗林式土器圏での出土が散見されるもので、松本市内では初の発見例となった。壺の一部であろう。また、石器においては黒曜石を伴い、磨製鏃は成品とあらゆる工程の未成品や剥片が多量に出土したのに対し、磨製斧は成品と破損品のみを確認に止まった。この傾向は松本市域における中期後半～末の遺跡に共通し、後期前半になって磨製斧が組成から失われる一方で磨製鏃は残り、同様の状況を継承している。石材供給の点から栗林式を見直そうとする近年の研究動向の一助となろう。

古墳時代 遺構に伴うものが少なく溝302上層や溝302以南の検出面で遺物がみられるのみである。時期は前期と後期に属する遺物が多少みられるが大半は中期に属する。溝302の性格は不明であるが当遺跡では初めて中期の遺構を検出した。溝302覆土の水洗によって得られた滑石製白玉はこの時期に属すると推定している。

平安時代 2～5次地点で遺構と遺物が検出されている。特に3次地点、5次地点では堅穴住居址が合計19軒検出され集落の中心であったと考えられるが、今回の4次地点では当該期の遺構は少ない。特徴としては風字硯が出土したこと、平安時代後期の遺物が遺構内にまとまってみられたことなどが挙げられる。風字硯は周辺での出土例が少ない。遺構からの出土ではないので帰属時期を限定はできないが、出土状況、周辺遺跡での出土例、3次、5次地点の集落の時期から考えて前期の可能性が高い。形態は海と陸を仕切る突帯に穿孔のある特殊なものである。42住で出土した土器群はこれまでの調査であまりみられなかった平安後期の土器群である。

中世 これまでの調査では2次地点と3次地点で当該期の堅穴状遺構と墓址と考えられる土坑が検出されている。出土遺物の時期はほぼ13世紀後半に属しており、4次地点でも同時期に属する遺構と遺物を検出している。当遺跡が13世紀後半の集落址であることがわかる。ただし、2次・3次地点に比べ遺構数・遺物数とも多く、建物址・井戸址などこれまで確認されなかった遺構もみられることから、集落の中心のひとつであったと考えられる。特徴としては井戸址が多いことが挙げられ、未完掘を含めると合計7基を数える。切り合い関係があまり見られず出土遺物の時期もあまり変わらないことから、同時期もしくは近い時期に存在していたことが考えられる。また、土328出土の鉄鍋は中世前半期の煮炊具を考える上で貴重な資料になるだろう。中世前半期の煮炊具は周辺では松本市里山辺の南方遺跡で土鍋と石鍋がみられるのみである。ただし、松本市中山千石出土の内耳鉄鍋と形態、寸法が類似しており松本市史では15～16世紀代に属する可能性が指摘されていること、また共伴遺物はほぼ13世紀代に属すると考えられるが鋳軸の陶器片は13世紀代にはみられない遺物であることなどから、鉄鍋が別の時期の遺物である可能性も残る。出土例が少なく確実なことはいえない。類例を待ちたい。

最後になりましたが今回の調査を実施するにあたり多大なご理解とご協力をいただいた株式会社アイディールならびに松電商事株式会社の皆様、また発掘調査に参加された協力者の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

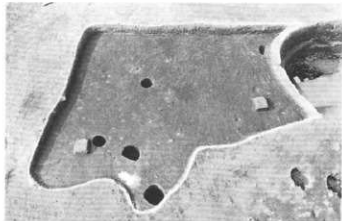
- 野村一寿 1996 「第5章 掘り出された中世のくらし」 『松本市史 第2巻 歴史編Ⅰ 原始古代中世』
松本市教育委員会 2000 「松本市文化財調査報告No144 松本市竹瀬原遺跡Ⅱ」



調査地全景（弥生面、写真上方が西）



調査地全景（南上空から写す。左上方の道路は県道新茶屋・塩尻線）



42住完掘



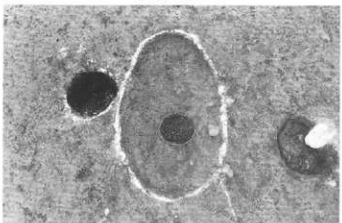
42住遺物出土状況



51住完掘 (北から)



51住完掘 (西から)



51住炉址



51住炉址断面



52住完掘 (南西から)



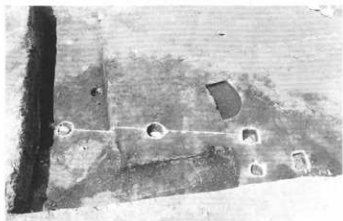
52住完掘 (北東から)



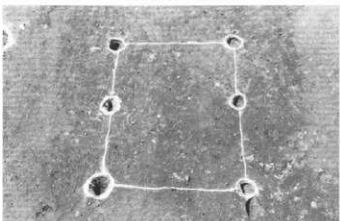
52住炉址



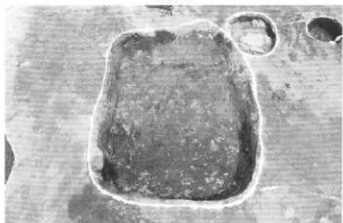
53住遺物出土状況



建301



建302



土302完掘



土302礫出土状況



土311完掘



土326上層礫出土状況

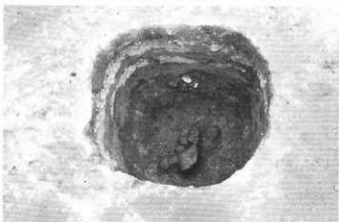
写真図版 4



土316完掘



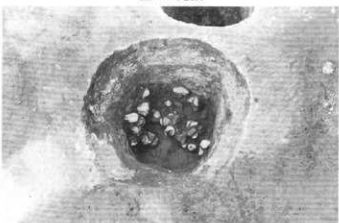
土316底部井戸枠痕



土322完掘



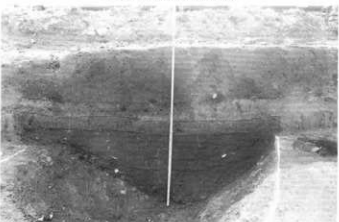
土322下層礫出土状況



土321下層礫出土状況



陶硯（風字硯）出土状況



溝302西端土層



調査風景（南から）



9



22



24



26



28



33



38



39



41



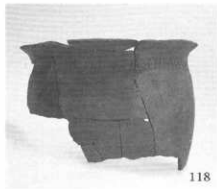
42



54



107



118



120



123

弥生土器 写真(1)



126



158



167



弥生土器・土製品小形品

左上:128、その左下:75、その右:121、その下:122
中央:155、その右:90、その右下:50

弥生土器 写真(2)



古墳31



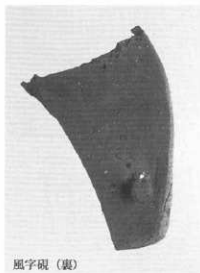
古墳32



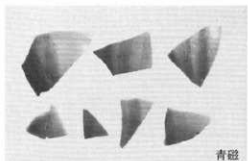
42住出土品



風字碗(表)



風字碗(裏)

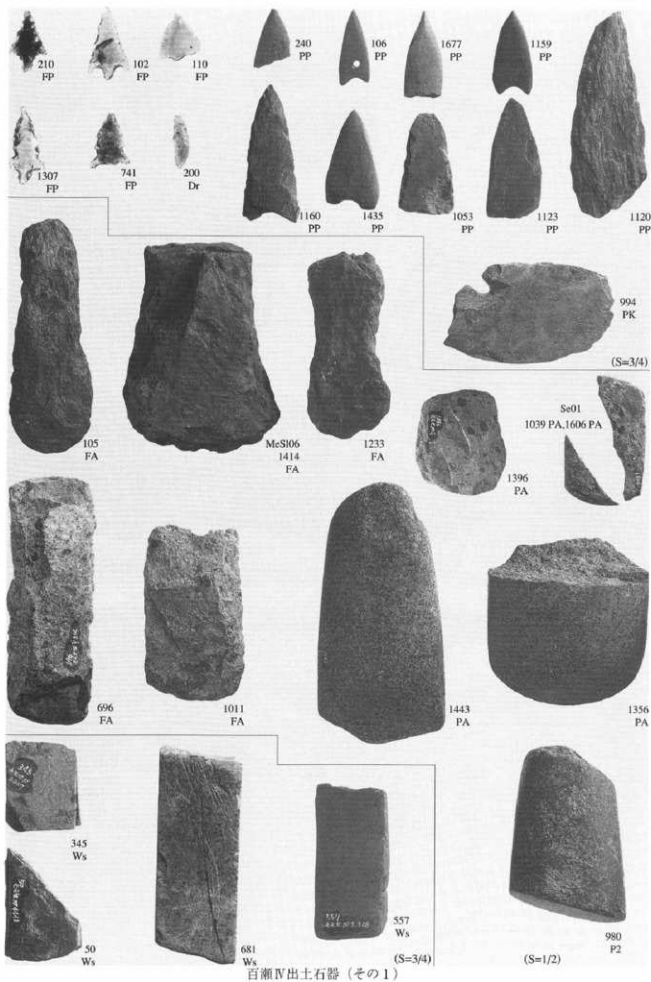


青磁

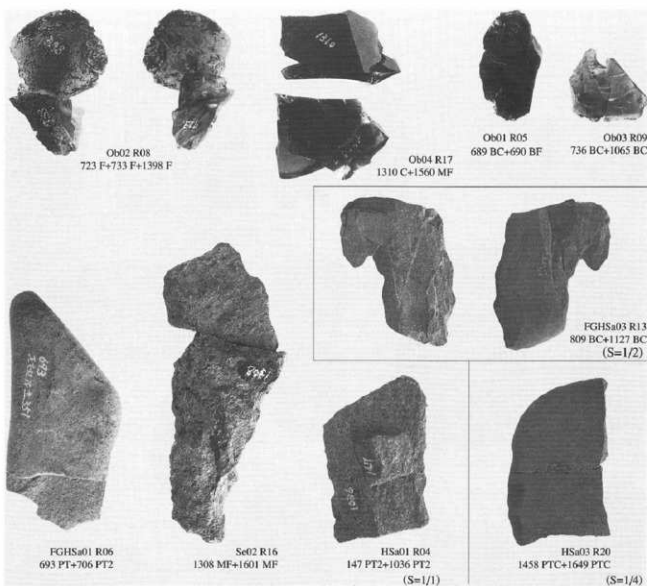


中世陶磁器

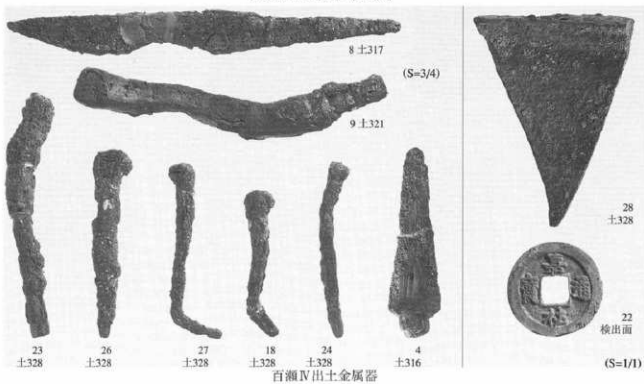
古墳～中世土器・陶磁器



百瀬IV出土石器 (その1)



百瀬Ⅳ出土石器 (その2)



百瀬Ⅳ出土金属器

長野県松本市 百瀬遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし ももせいせき4 きんきゆうはくつちようさほうこくしよ						
書名	長野県松本市 百瀬遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書						
副題名							
巻次							
シリーズ名	松本市文化財調査報告						
シリーズ番号	No.151						
編著者名	赤羽裕幸 荒木龍 太田圭郁 直井雅尚						
編集機関	松本市教育委員会						
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 (記録・資料保管:松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710)						
発行年月日	2001(平成13)年3月23日(平成12年度)						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村	遺跡番号	北・緯	東・経	調査期間	調査面積	調査原因
ももせ 百瀬	松本市 寿豊丘 118-2-1他	20202	317	36度 11分 0秒	137度 58分 30秒	19990513~ 19990710	973㎡	店舗建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
百瀬	集落跡	縄紋	なし	縄文土器(中期初頭~後葉) 石器	弥生中期末、平安後期と中世の集落址を確認した。弥生時代は遺構は少ないが大量の土器・石器が出土。中世は建物址と井戸が確認され、多彩な陶磁器、鉄器が出土した。弥生の人面付土器や平安時代の風字模の出土が目される。	
		弥生	竪穴住居址 土坑 ピット	3軒 26基 14基		弥生土器(中期末~後期前半) 人面付土器片 石器(原石・石核・剥片・礫形・錐形・打製斧形・磨製斧形・磨製鋸形・磨製石包丁形・礫石器・砥石状)
		古墳	溝址	1条		土師器(前・中期)、須志器(後期) 土製品(ミナツト土器) 石製品(白玉15点)
		奈良・平安	竪穴住居址 ピット	1軒 3基		土師器、須志器、灰陶陶器 陶瓦(風字模1) 鉄滓
		中世	建物址 柱穴列 竪穴状遺構 井戸址 土坑 ピット	2棟 1基 3基 7基 1基 37基		陶器(東海系施釉陶器・東海系無釉陶器・須志質陶器)、磁器(青磁) 石器 鉄器(鉄釘・刀子・鉄線・鉄鍋・不明鉄製品) 鉄製品 銭貨(嘉祐通宝1)
		時期不明 (平安~中世?)	土坑 ピット	9基 17基		

松本市文化財調査報告 No.151

長野県松本市

百瀬遺跡Ⅳ

—緊急発掘調査報告書—

発行日 平成13年3月23日

発行 松本市教育委員会
〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 川越印刷株式会社
〒390-0875 長野県松本市城西1-5-21



MOMOSE site 4th
Refitted artifacts
Ob02 R08 723+733+1398